平成21年第2回美祢市議会定例会議録(その2)

平成21年6月11日(木曜日)

1.出席議員

1番	馬屋原 眞 一	2番	岡 山 隆
3番	有 道 典 広	4番	高 木 法 生
5番	萬 代 泰 生	6番	三 好 睦 子
7番	山 中 佳 子	8番	岩 本 明 央
9番	下 井 克 己	10番	河 本 芳 久
11番	西 岡 晃	12番	荒 山 光 広
13番	柴 崎 修一郎	14番	田 邊 諄 祐
15番	山 本 昌 二	16番	布 施 文 子
17番	佐々木 隆 義	18番	原 田 茂
19番	村 上 健 二	20番	大 中 宏
21番	南 口 彰 夫	22番	安 富 法 明
23番	徳 並 伍 朗	24番	竹 岡 昌 治
25番	河 村 淳	26番	秋 山 哲 朗

2.欠席議員

な し

3.出席した事務局職員

事務局 長	重 村 暢 之	係 長	岩 崎 敏 行
係 長	佐 伯 瑞 絵		

4.説明のため出席した者の職氏名

市 長	村 田 弘 司	副 市 長	林 繁 美
総 務 部 長	波 佐 間 敏	総合政策部長	兼 重 勇
市民福祉部長	山 田 悦 子	病院事業局長	藤 澤 和 昭
建設経済部長	伊 藤 康 文	総合観光部長	山 本 勉
総 務 部 次 長	田 辺 剛	総 務 部 次 長	福 田 和 司
総合政策部長	金 子 彰	市民福祉部長	古 屋 勝 美
建設経済部長	齊 藤 寛	市民福祉部長	佐々木 郁 夫
次		生活環境課長	

建設経済部
商工労働課
教育委員
事務局長
會計管理
者
秋芳總
支所
監査委員
農務委員
事務局長
教育委員
学校教育課
長

藤井勝巳
國舛八千雄
久保毅
杉本伊佐雄
西山宏史
古屋安生
松本孝志

教育長
消防長
美東總
支所
代表監査委員
上下水道課長
市民福祉部
高齢障害課長

永富康文
坂田文和
坂本文男
三好輝廣
中村弥寿男
岡村惠右

5. 付議事件

日程第 1 会議録署名議員の指名について

日程第 2 一般質問

- 1 原田 茂
- 2 南口 彰夫
- 3 河本 芳久
- 4 布施 文子
- 5 荒山 光広

6. 会議の次第は次のとおりである。

午前10時00分開議

議長（秋山哲朗君） おはようございます。これより本日の会議を開きます。

事務局より諸般の報告をいたさせます。事務局長。

事務局長（重村暢之君） 御報告いたします。

本日、机上に配付してございますものは、議事日程表（第2号）、以上1件でございます。

御報告を終わります。

議長（秋山哲朗君） 本日の議事日程は、お手元に配付いたしております日程表のとおりでありますので、御協力をお願いいたします。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第80条の規定により、議長において、馬屋原眞一議員、岡山隆議員を指名いたします。

日程第2、一般質問を行います。

既に送付いたしております一般質問順序表に従いまして、順次質問を許可いたします。原田茂議員。

〔原田 茂君 登壇〕

18番（原田 茂君） おはようございます。明政会の原田でございます。一般質問の前に、このたび秋芳プラザホテルで、一酸化炭素中毒事故が発生し、犠牲になられた大阪の26歳のカメラマンの方に、謹んで哀悼の意を表し、衷心より御冥福をお祈り申し上げます。

それでは、一般質問の順序表に従いまして、2点ほど質問を申し上げます。

1点目は、船窪山斎場の今後の運営について。

2点目は、中学校の修学旅行についてお尋ねいたします。

まず、1点目の船窪山斎場の今後の運営についてですが、まずその前に、村田市長におかれましては、旧美東、秋芳地区では、大変市民の間で評価が上がっておりますので、大変前向きな答弁をいただくと期待をしておりますので、どうかよろしく願いいたします。

昭和48年に整備完成され築後37年目となりますが、この斎場は合併前は皆様御存知のように美祢郡、一部事務組合で、美祢郡環境衛生組合が運営していて、旧美祢郡の町民が利用しておりましたが、現在は市で管理運営されており、主として

旧美祢郡の町民が利用しております。

当時の設計施工がよくないのか、建物の老朽化も顕著化しております。また、火葬炉もときどき不具合を生じ、市民の利用者に満足のいく施設とはなっておりません。特に火葬炉ですが、1号炉、2号炉と2台の火葬炉があるわけですが、昭和63年に2台の火葬炉にコンピューター制御が導入され、スムーズに運営されておりましたが、2号炉は落雷により平成12年に更新され9年が経過しておりますが、現在のところ順調に稼働しておるようですが、1号炉については、導入されてからいまだ更新されず21年が経過しておりますので、ときどき不具合が生じて、市民の皆様に変な御迷惑をかけている状況でございます。

このコンピューター制御機器の耐用年数はおおむね8年でありまして、2台ともに耐用年数を超えています。特に1号炉は先ほど申しましたが、導入後21年が経過していて、故障が生じても現在修理する部品メーカーも存在しないため、故障の場合に備え制御機器の更新が急務であります。

そこで市長に、2点についてお伺いいたします。

1点目は、現在美東、秋芳地区の市民は、この斎場が存続するのか、それとも指定管理者制度により運営されている美祢市斎場「ゆうすげ苑」に統合されるのか懸念を抱いておりますので、市長のお考えをお聞かせください。

2点目は、約1,000万円ぐらいかかるコンピューター制御機器の更新は早急にされるのか、お尋ねいたします。

次に、2点目の中学校の修学旅行についてお尋ねいたします。

毎年、子供たちが楽しみにしている思いでいっぱい修学旅行が、ことしは新型インフルエンザの感染拡大に伴い、県内の中学校でも中止・延期という事態が相次いで発生しています。

市立美東中学校では、5月下旬に関西方面に修学旅行が予定されておりましたが、学校側から臨時保護者会が開かれ、いろいろな説明があり、8月の下旬に同方面に延期されることになりました。

延期については、これは致し方ないことですが、延期に伴い交通関係で追加経費が発生することになるということになりました。バス利用の場合は追加経費がかかりませんが、これまたいろいろな問題がありまして、子供たちも余り好ましく思っておりませんし、バス利用なら修学旅行に行かないという子供もおります。現時点

では未定ですけど、新幹線利用の場合は多くても7,000円ぐらい追加経費がかかるようです。

保護者からは、親のせいでもなく子供たちが悪いわけでもないのに、追加経費の負担はこの経済状況悪化の中で所得が減少しており、また、母子家庭では切り詰めて生活しておるので納得できないという声が多数出ています。

そこで教育長に2点お伺いします。

1点目として、修学旅行の延期について、市内8校の現況及び県内の中学校の状況についてお尋ねいたします。

2点目ですけど、追加経費については、現在JRと業者と交渉されているとお聞きしており、また、学校側も最終的に交通手段についてはアンケートをとられるようですが、アンケートの結果新幹線利用となり、どうしても追加経費が必要となった場合、大変厳しい財政難の折ですが、本年に限り特例として保護者の負担軽減のため助成をされるお考えはないかお尋ねいたします。

以上で、壇上での質問を終わります。前向きな御答弁をよろしくお願ひいたします。

〔原田 茂君 発言席に着く〕

議長（秋山哲朗君） 村田市長。

〔市長 村田弘司君 登壇〕

市長（村田弘司君） 原田議員の御質問にお答え申し上げます。

先ほどは褒めていただきましてありがとうございます。私は、合併をいたしまして、かつての美祢市、美東町、秋芳町、県では一つの市になります、新しい市。ですから、将来を見越した、今はすべて新しい美祢市民ですから、結果として市民の方になるような形で高い視点、それから遠くを見据えた視点で考えて答弁させていただきます。よろしくお願ひします。

まず、船窪山斎場の今後の運営についてであります。

船窪山斎場は、昭和48年に施設整備されて以来、先ほど原田議員がおっしゃいましたが、40年近い年月が経過をしていることから、施設の老朽化が著しく、施設の状況は議員御指摘のとおりでございます。

一方、市内には平成18年に開設をいたしました、これも先ほど議員がおっしゃいましたけれども、美祢市斎場「ゆうすげ苑」がございまして、設備内容が充実し

ているとともに、現在3基の炉が稼働しておりますけれども、予備のもう1基ございまして、4基目の炉の増設が可能というふうな施設でございます。

このような状況の中で、船窪山斎場の今後の運営につきましては、地域の皆様にとりまして重要な問題であるというふうに認識をいたしております。

1点目の、老朽化をしている斎場の今後についての御質問でございますけれども、船窪山斎場の運営につきましては、市民の皆様の御意見をお伺いをさせていただきながら、経費、設置コストですね、それからランニングコスト、いろんな面をあらゆる角度から検討を重ねた上で、結論を出してまいりたいというふうに考えております。

また、2点目の管理運営についての御質問でございますけれども、現在、老朽化した施設であることから、機器の故障等不足の事態が生じないように最善の注意を払いまして、対応しているところでございますけれども、大規模な機械整備等の改修につきましても、議員が御質問になりましたけれども、早い時期に結論を出したいというふうに今考えておる。

いずれにいたしましても、地域の方々と十分協議させていただきまして、今二つの施設があるというふうに申し上げましたけれども、やはりまだ合併して間もないということもありますので、地域の方々の十分な御意見をちょうだいいたしまして、方針を決定してまいる所存でありますので、議員の皆様を初め、市民の皆様の御理解をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

第2の中学校の修学旅行についての御質問につきましては、教育長に答弁をいたさせます。

以上でございます。

議長（秋山哲朗君） 永富教育長。

〔教育長 永富康文君 登壇〕

教育長（永富康文君） 原田議員の中学校の修学旅行についての御質問にお答え申し上げます。

本市の中学校におきましては、次の三つのねらいをもって、修学旅行の計画をしておるところであります。一つは、豊かな自然や文化に触れる体験を通して、学校における学習活動を充実、発展させること。二つ目は、校外における集団活動を通して、教師と生徒及び生徒相互の人的な触れ合いや信頼関係の大切さを経験し、

生涯の楽しい思い出をつくること。三つ目は、自律的な集団行動を通して、健康や安全、集団生活の決まりや社会生活上のルール、公衆道徳などについて望ましい体験を得ることにより、人間としての生き方についての自覚を深めることであります。

修学旅行は、これらの目的を達成するために大変重要な行事の一つであります。しかしながら、御指摘のように、新型インフルエンザの国内での感染拡大によりまして、市内の中学校の4校で、修学旅行が延期になったところがございます。

そこで、1点目の御質問であります、市内8校の現況及び県内中学校の状況について説明をさせていただきます。

5月16日に、国内で最初の新型インフルエンザの患者1名が神戸市で確認され、翌日の5月17日には、大阪の高校生9人の感染が確認されました。そして18日には、兵庫県、大阪府等で96人の感染が確認されたところであります。

そのような情勢の中で、美祢市教育委員会では、県教育庁教育政策課からの指導を踏まえて、5月18日に各学校長に対しまして、「児童・生徒、教職員の健康・安全が最優先であるため、あらかじめ今後のさらなる感染地域への拡大を想定し、旅行者等関係機関と協議して延期等の対応により、感染地域への旅行を避けること。また、既に実施した学校につきましても、健康観察等を通して児童・生徒の健康状況の把握をすること」という趣旨の通知を行いました。

その時点で、伊佐中、厚保中、豊田前中の3校は既に修学旅行を終えておりました。大嶺中につきましても、長崎・熊本方面でありましたので、計画どおり実施したところであります。従いまして、4校が計画通り実施いたしました。美東中、秋芳北中、秋芳南中及び於福中につきましても、大阪・京都・神戸方面を5月の後半に計画しておりましたので、延期ということになった次第であります。

県内の中学校につきましても、5月22日の県教育庁の調査では、5月、6月の実施を予定していた学校が130校ありましたが、そのうち112校が中止または延期を決めております。それから、9校が実施されておりますが、これは大阪方面以外の修学旅行を計画していた学校と考えられます。そして、9校が検討中という結果となっております。

次に、2点目の新型インフルエンザの感染拡大により、修学旅行が延期されたことに伴う保護者の追加負担についてであります。

まず、旅行を延期したことによるキャンセル料についてであります。これにつ

いては、各学校が中心となって旅行業者と交渉したことで、結果的に保護者がキャンセル料を負担することはなくなりました。ただし、旅行の時期を変更したことで、ＪＲの特急料金の１年前予約の割引がなくなり、学校によっては多少の違いがありますが、１人当たり６，０００円程度の追加負担が必要になるとのことでありました。

そこで、各学校においては、再度旅行業者を通じて、また、美祢市教育委員会は県教委を通じて、ＪＲに割引の依頼を続けているところであります。また、保護者の経済的な負担を軽減するために、国の補助等が活用できないか手だてを講じているところであります。

現在、確定ではありませんが、ＪＲから旅行業者を通じて、同様の割引を行うことができる旨の連絡があったということを知っております。

いずれにしましても、教育委員会といたしましては、今後とも児童・生徒の健康・安全や保護者負担に十分な配慮をしながら、修学旅行の円滑な実施に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長（秋山哲朗君） 原田議員。

１８番（原田 茂君） それでは再質問並びに意見を述べさせていただきます。

まず、斎場は後にしまして、中学校の修学旅行についての件ですが、教育長には大変前向きな御答弁をいただき、まことにありがとうございました。

新型インフルエンザ感染拡大により修学旅行を延期された市内８校の現況、県内の状況について、詳細に説明をしていただきまして、まことにありがとうございました。

延期に伴う保護者の追加経費の件ですが、各学校並びに市教育委員会では保護者の経済的な負担を軽減するために、これは後でわかったわけですが、通告をした後に、今全力で尽くされておると。また先ほども御答弁されましたが、まだ確定ではないけど、ＪＲや旅行業者との交渉では負担軽減できる方向に向かっていると御答弁がありましたが、どうか同じことを何遍も言いますが、保護者に追加経費がかからないようによくお願い申し上げまして、この件については質問を終わります。ありがとうございました。

次に、船窪山斎場の今後の運営についての件ですが、先ほど市長が早期に検討す

ると述べられましたので、まあ、それでええのですが、一応現状をまだ皆さんも把握されてない方がおられると思いますので、少し言わせていただきます。

実は火葬斎場は、毎日稼働しておるわけではございません。船窪山斎場は2基ありますが、1台のときもありますし、これは予約をしてどうこうするものではありませんので、中間には2台動くこともあります。そうした場合に、私が先ほど申しましたように、1台が早く言えばパンク状態です。余り故障とかいうレベルでなく、余り作動といたしますか、稼働をしておりません。ですので、更新して9年目のもう1台は何とかまだ稼働しております。

そういう状況で過去に、まあ生々しい話をしちゃあいけんのですが、一応火葬場行くと、炉に自動的に搬送といたしますか、棺が入るわけです。棺が入って、コンピューターで点火のスイッチが入る。それでも焼却、焼却という言い方は悪いですけど。それがたまたま故障で、点火しないんですよ。それで、体裁の悪い話ですが、一遍入れたものを、またひつぎを出して隣の炉でやると。そういう事態があったわけです、これは現実に。

ですから、市長、先ほど早期と言われましたが、早期と言わず、もう一日でも早く、これ、どねえかせんと。これはほんと御遺族の方といたしますか、先ほども私がちょっと話を聞いたところでは、もう腹を立てるというよりは、あきれて笑ってね、話されたんですよ、その人が。そういう状況が現実にあるわけです。ですから、1,000万円近くかかるらしいんですよ。修理がきかんのですね、先ほど申しましたように。ですから、早期に、どうかこうとかじゃなしに1日も早く更新をしていただきたいと思います。

これを切に切望といたしますか、お願い申し上げまして、質問を終わります。ありがとうございました。

.....
議長（秋山哲朗君） 一般質問を続行いたします。

南口彰夫議員。

21番（南口彰夫君） 一般質問をいたします。

まず、昨日の発言についてお詫びと訂正をいたします。昨日、美祢市の竹の子の会社に関連する質疑応答が、この議場で激しく行われたので、私もそれに参加をし、本来きょう行う発言を必要ないと判断をし、取りやめる旨の主張をいたしました。

しかしながら、既に一般質問として事前に通告をし、MYTを通じて市民にも広く周知されていると。さらにその答弁の内容が、本来私がしたものではないものが多分あるのに、一方的に発言を取りやめるというのは議員として極めて不適切であるという指導を厳しく受けましたので、市民の方々より。

ということで、昨日の発言を訂正をし、3番目のテーマについては、再度質問をさせていただきたいと思いますので、議長並びに市長さんのほうの御了承をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。（「はい、結構です」と呼ぶ者あり）よろしく願いいたします。

まず、第1に、市立病院の緊急医療体制についてです。

この質問につきましては、先日、新型インフルエンザは萩で起きた、さらには緊急医療体制ということでは、先日のホテルの事件、こうしたことを想定したものではありません。既に質問は事件や事故が起きる数日前に通告をしていましたので、あくまでも通常の病院の通常業務の中で、通常の診療業務と併せ発生する緊急医療体制、昼夜間の緊急医療体制についての体制が十分と言えるのかどうか、そうした点の問題点があれば、不足等も含めてお答え願いたいと思います。

2番目に、同じく保健医療の問題ですが、新型インフルエンザに絡んで、山口県が県下の保健体制と併せ、県民の相談窓口をマスコミ等を通じて発表いたしました。そこで、ふと疑問に感じたのは、それぞれの地域の保健所を窓口相談をとということであったのですが、少なくとも、この美祢市はどこに属するのかという疑問を抱いたような内容でした。

宇部、山陽小野田圏域ということで、それぞれの保健所が発表されていますが、この地域では当然美祢市に近いのは宇部市となっていますが、しかしながら、お隣の長門保健所、萩保健所、それから下関の保健所、言えば、それぞれの地域性から見れば、発熱緊急等も含めて、地域の市立病院なり美東の共立病院は独自の体制をとっていますが、県の当時、県の窓口とすれば、美祢が一体保健医療ということであれば、どこに組み込まれているのかという点が非常にあいまいになっているのではないかと。

市長自身も、お住まいが於福なわけですから、じゃあ何か緊急にということであれば、相談窓口が於福の住民に宇部市まで行ってということにはならないのではないかと思います。萩で発生したインフルエンザの患者は長門病院に保護されている

ということなどを見ても、また厚保地域の方々が、じゃあどちらに向かうか、それと美東地区の方々がどちらの保健所に行くのが近いのといった問題が大きく疑問としてわいたからです。

御承知のとおり、美祢市にもかつて保健所がありました。これがいろんな形で解放される中に、しかし、その都度県は住民サービスの低下につながらない最大限の努力をするということを主張してきたので、美祢市における市民のための保健医療の体制を、県との関係でも積極的に主張しながら、より一層の充実を求められるのではないかと思います。そういった点も含めて、御答弁願いたいと思います。

2番目に、高齢者の自宅に配達されている弁当にかかわる裁判の問題についてです。昨年より既に山口の地方裁判所で裁判が行われています。これは市民の坪井さんが住民訴訟という形で、市長に対して裁判を起こされています。その裁判の正確な中身、それと現状はどうなっているのかということがほとんどわからないままに推移してきてます。

議会では、それにかかわる弁護士費用を議決をするという範囲にとどまっていますので、今の時点で本来高齢者への配達をする弁当、宅配サービスのあり方、また裁判に対して市がどのように臨んでいるのか。この点を議会を通じて、市民に明らかにしていくことが必要ではないかと思います。

3番目の最後に、美祢市の森林保全対策と、さらには農林産物の加工販売をする、本来の目的をもったこの会社が、今後どうなっていく、どういう運営方針をとろうとしているのかといった点についても、お答え願いたいと思います。

以上、壇上での発言といたします。

〔南口彰夫君 発言席に着く〕

議長（秋山哲朗君） 村田市長。

〔市長 村田弘司君 登壇〕

市長（村田弘司君） 南口議員の御質問にお答え申し上げたいと思います。

まず、先ほど冒頭に、竹の御質問について、やはりされるということでございます。私も丁寧に答弁させていただきたいと思います。

まず、第1の市立病院の緊急医療体制についてであります。1点目の通常の診療業務と併せ、昼夜間の緊急時の体制は十分と言えるのかという御質問でございますけれども、救急医療体制につきましては、山口県が策定をされておられます第五次

保健医療計画においては、傷病者の状態に応じた迅速・適切な救急医療の提供の確保を図るということにしております。

このため、救急救命士の救護活動やA E Dによる対応する病院前救護活動、そして比較的軽症な救急患者に対応する初期救急医療機関、次に入院治療を必要とする救急患者に対応する第二次救急医療機関、最終的に第二次救急医療機関では対応できない複数の診療科にわたる重篤な患者に対応する第三次救急医療機関のそれぞれの機能を明らかにし、これらの医療機関相互の連携を図るよう規定されているところでございます。

緊急医療提供体制におきます本市の病院事業の役割といたしましては、まず、美祢市立美東病院につきましては、初期救急医療機関として比較的軽症な救急患者から入院を必要とする重症患者まで幅広く受け入れ、また休日においては「住宅当番医」として地域に密着した機能を果たしておるところでございます。

また、美祢市立病院につきましては、本市が所属する宇部・小野田医療圏域における病院群 群れですね、病院群輪番制度によって、二次救急医療実施病院としての機能を果たしているところであります。

次に、それぞれの病院におきます緊急患者受け入れの実態でございますけれども、平成20年度の実績で申し上げますと、時間外の診療を含めて美祢市立病院では年間に1,944人の方、また美祢市立美東病院においては、年間に2,741人の患者を受け入れておるところでございます。

ただし、これらの緊急患者の受け入れにつきましては、美祢市立病院においては10名の常勤医師により1日平均111名の入院患者の管理を行いながら、また美祢市立美東病院においては9名の常勤医師によりまして、1日平均97名の入院患者の管理を行いながらの緊急患者の受け入れであり、その業務は非常に激務であります。また現段階におきましては、昨年度と比較して常勤の医師数が美祢市立病院では1名、美祢市立美東病院では2名減少しておりまして、こうした状況はさらに厳しくなっておるところでございます。

このような状況のもと、昼夜間の緊急時の対応につきましては、市民の皆様の温かい御理解をいただくとともに、適切な御利用についての格段の御配慮をお願い申し上げます。

また、2点目の山口県の保健所が美祢市にはないので、新型インフルエンザなど

の対応に不足があるのではないかという御質問についてであります。

これまでも、世界的流行をもたらす新型インフルエンザの発生が危惧をされておったところでございますけれども、メキシコで発生が確認され、現在では世界各地に感染が拡大しており、我が国では5月16日に初めて神戸市在住の高校生の発症が確認され、その後、他の都道府県においても発症が確認されていることは御承知のとおりであります。

美祢市を管轄する宇部環境保健所におかれては、メキシコ、アメリカ、カナダでの感染拡大を受けまして、4月30日に新型インフルエンザ対策連絡協議会を立ち上げ、発熱相談センターを設置をするとともに、発熱外来を管内の各市に1カ所設置して対応されているところであります。

本美祢市におきましては、5月1日、私、市長を本部長といたします対策本部を設置をするとともに、保健センター内に相談窓口を設置いたしまして、市民からの相談をお受けし、土・日・祝日も対応できる体制をとってきておるところでございます。

また、市民の皆様へは、発熱相談センター窓口設置に関するチラシの配付、またMYT、有線放送、告知放送などで情報提供を行ってきたところであります。

美祢市立病院では、当地域の基幹病院の使命といたしまして、発熱外来を引き受けておりまして、院内感染防止を図るため、敷地内にテントを設置をした発熱外来を整備をいたしまして、患者発生に備えてきておるところであります。

本県におきましては、御承知のとおり、6月2日に県内初の新型インフルエンザの感染者が確認をされたところでございます。感染者は米国から萩市に帰国した30歳代の女性で、長門市内の感染症指定医療機関内に入院されておられます。

山口県においては、緊急に新型インフルエンザ危機管理対策本部会議を開きまして対応を協議されたところ、患者が児童・生徒でないことから、学校や公共施設などの休校・休業措置は要請をせずに、今後の状況を見て対応をされるというふうにお伺いをしているところであります。当美祢市におきましても、事態の推移を見守ってまいりたいと考えております。

なお、美祢市周辺地域において、急激な感染拡大となった場合には、宇部環境保健所、医師会、医療機関及び消防などの関係機関が相互に協力していくよう「新型インフルエンザ対策連絡協議会」が既に組織をされておりますので、これによりま

して対応していくこととなります。

今後におきましても、宇部環境保健所との連携のもと、市民の皆様の安全・安心を守るために、情報を適切にお伝えしてまいりたいと考えておりますので、御理解のほどよろしくお願いを申し上げます。

次に、第2の高齢者の自宅へ配達されている弁当にかかわる裁判についてであります。

美祢市におきましては、在宅のひとり暮らしの高齢者や、高齢者のみの所帯の方等を対象といたしまして、栄養バランスのとれた食事を提供することによりまして、対象者の食生活の向上と健康の保持に資することを目的といたしまして、配食サービス事業を実施をしているところでございます。事業の内容といたしましては、利用者の希望やアセスメントに基づきまして、週に1回から数回、昼食または夕食を利用者の御自宅等へ配達するものでありまして、栄養バランスのとれた食事を提供するとともに、御自宅への訪問の際には、御利用される方の安否確認を行うという大事な役割を担っておりまして、現在美祢市内の89名の方が利用されておられるところでございます。

この配食サービス事業の実施に当たりましては、事業について適切な事業運営が確保できると認められる社会福祉法人、民間事業者、ボランティア団体等に委託をして実施をしているところでございますが、この委託契約を行っている団体への不当利得返還請求等の行使を怠っているとして、違法確認請求及び損害賠償請求の住民訴訟が、旧美祢市において3件、新市において1件、計4件提起されているところであります。

この裁判に関する内容につきましては、現在は係争中でありまして、差し控えさせていただくことといたしますが、訴状の概略について御説明をいたしたいと思っております。

1件目の訴訟は、平成19年4月に訴状が提出されておりまして、概略といたしましては、配食サービス事業に係る備品の貸借について事務処理上の瑕疵があり、備品の貸借契約条項に違反しているため、市は、貸出先への返還請求権を有しているにもかかわらず、その行使を怠っていることについての違法確認の請求がなされているものであります。

次に、2件目の訴訟については、平成19年6月に訴状が提出されており、概略

といたしましては、平成18年度の配食サービス事業の委託先に対して支払った委託料が払い過ぎであるにもかかわらず、その過払い部分の返還請求を市が怠っていることについての違法確認請求と併せて、この過払い部分の変換を市が請求せよとの損害賠償請求がなされているものであります。

次に、3件目の訴訟については、平成20年2月に訴訟が提出されており、概略といたしましては、配食サービス事業にかかわる備品の貸借について、事務処理上の瑕疵があり、備品の貸借契約条項に違反しているため、市は、これにより生じた損害の賠償請求を怠っていることについての違法確認請求と併せて、市が受けた損害額を委託先に請求せよとの損害賠償請求がなされているものであります。

最後に4件目の訴訟についてですが、平成20年9月に訴状が提出されており、概略といたしましては、平成15年度の配食サービス事業の委託先に対して支払った委託料が払い過ぎであるにもかかわらず、その過払い部分の返還請求を市が怠っていることについての違法確認請求と併せて、この過払い部分の変換を市が請求せよとの損害賠償請求がなされているものであります。

以上、4件の住民訴訟の概略について申し上げましたけれども、これらの訴訟につきましても、現在までに14回にわたり口頭弁論が行われており、現在も係争中であるということの御報告をさせていただきます。

続きまして、第3の美祢市の森林保全対策と農林産物を加工販売する会社の現状と今後の課題についてであります。

まず森林保全対策についてですが、本市の総面積のうち75.5%は山林が占めており、この山林全体の中で適切に管理されているものは半分にも満たないと思われ、森林の保全対策は本市の重要な課題であると認識をしておるところでございます。

森林は環境の保全、水源の涵養、二酸化炭素の吸収、災害防止など多くの公益的な役割を果たしますことから、将来にわたり適正に管理・保全していかなければならないと思っております。

美祢市では森林の保全対策といたしまして、平成20年度に「特定間伐等促進計画」を策定をいたしまして、県の方針や市の間伐等の面積を勘案して、平成20年度から平成24年度までの5カ年間で4,100ヘクタールを間伐する目標を設定し、現在取り組んでおるところでございます。

また、森林整備地域活動支援交付金制度を活用いたしまして、森林所有者による

計画的かつ一体的な森林施業の実施や、施業の集約化に必要な地域活動の支援を行いまして、森林所有者の森林整備に対する意識の高揚を図っております。

さらに森林整備には欠かせない林道、多目的作業道の整備事業、竹林の適正管理のための作業道や伐採事業、併せてシカ被害防止対策事業にも取り組んでおるところでございます。

次に、農林産物を加工販売いたしております美祢農林開発株式会社の現状と課題についてであります。これは昨日の本会議場でも随分、御議論の中で私がお答え申し上げましたところでございますけれども、美祢農林開発株式会社は、森林保護のための伐採整備とその企画運営を主たる目的といたしまして、平成19年12月25日に、旧美祢市とカルスト森林組合が出資をして設立いたしました第三セクターでありまして、旧美祢市の出資は新市が引き継いでおります。

具体的な事業内容といたしましては、繁茂した竹を伐採をし、その竹を活用した竹箨の製造事業とその端材を利用しての竹細工加工事業、そして、整備をした森林で生育する竹の子等を活用いたしました水煮加工事業等であります。

竹箨の製造につきましては、美祢社会復帰促進センターの刑務作業と連携をいたしまして、平成20年度から本格的に製造に取り組んでおります。現在では1日に1万膳強の製造が可能となり、質・量ともに安定をしまいったところであります。

平成20年度におきましては、1年間に100万膳を製造いたしましたが、販売体制が十分に整っていなかったということから、美祢社会復帰促進センター内の売店で土産用として販売いたしたほか、一部の事業所への販売で合わせて6万5,000円膳の販売にとどまっておるところでございます。

しかし、かねてより交渉をしておりました、これも昨日申し上げましたけれども、奈良の本社があります卸問屋から、月3万膳から5万膳のお話もいただいております。これもお話し合いを私が今月中に会社のほうにまいりまして、最終的な調整交渉を進めていくというふうに思っております。さらに今後販売を強化して、あらゆるいろんな販売路を開拓していきたいというふうに考えているところでございます。

また、市内奥分にあります旧桃の木小学校跡地に建設をいたしました美祢市農林資源活用施設で、竹の子水煮加工事業を3月下旬から着手をいたしまして、商品として取り扱うことが可能となりました4月21日から本格的に水煮加工事業を開始

をしたところでございます。

ことは、山口県全域で竹の子が不足をしたことに加えまして、獣害によりまして 獣の害ですね、当初予定しておりました生産量の15トンを中心に大きく下回り、商品化できました水煮は約2.2トン強でございました。

なお、水煮の原料となる竹の子は、本市が美しい山づくり事業を行った市内7カ所の竹林約5ヘクタールと県事業の繁茂竹林伐採事業による竹林約3ヘクタール、そして個人所有の山林合わせて約10ヘクタールの竹林から掘り出したものでございます。

今後、良質な竹の子を安定的に供給するため、緊急雇用対策事業により、獣害被害に遭わないための防護柵の設置をするなどのモデル的竹林整備事業を行っているところであります。

このことが美祢市が進める森林保護の施策の一つであると同時に、美祢農林開発株式会社が行います竹箸の製造や竹の子の水煮等、地域ブランド商品の開発事業につながるものと考えておるところでございます。加えまして、本年、個人の方からの荷受けも行いましたが、持ち込まれました量も少量であったため、今後は、出荷者組合等の体制づくりにも取り組むことといたしております。

なお、今後の販売につきましては、竹箸同様、美祢産の安全・安心をアピールし、美祢市の特産品の一つとして位置づけまして、市内、市外を問わず、広く販売をいたしてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

議長（秋山哲朗君） 南口議員。

21番（南口彰夫君） 二つの公立病院の通常の業務と併せて、緊急時の医療体制についてですが、今の市長の答弁からいくなれば、通常美祢の公立病院は二次医療緊急病院としての機能を果たしていると、その後ろ盾には三次医療の山口大学病院があると、できるならば、日常的にはそれぞれ、美祢の市立病院では約2,000人の外来患者を抱えておるし、美東の病院では2,700人の通常の年間外来患者を抱えているということであるならば、できる限りそれぞれ地域にある地元の一次医療支えている開業医と連携しながら、在宅当番医という言い方ですね、土曜・日曜・深夜には、最寄りの医院とのかかわり合いで、もっとこの結びつきを、患者さん、市民そのものが自覚を持って結びついていくことが必要なんじゃないか

ということが言いたいんですかね。最初の辺。

議長（秋山哲朗君） 藤澤局長。

病院事業局長（藤澤和昭君） 南口議員さんの御質問にお答えします。

今御指摘のありましたとおり、救急医療をより安全に皆様方に提供するためには、市民の皆様方におかれましても平素からの御自身、あるいは家族の健康状態をるるに把握するため、かかりつけと密な関係をもたれる。また緊急時におかれましては、そうしたかかりつけの先生方と御相談なされて、より次の医療機関へ行かれることをお勧めしたいと思います。

議長（秋山哲朗君） 南口議員。

21番（南口彰夫君） ということであれば、市立病院が公の病院として、地域の市民の医療を支えている開業医の先生方との日常的な連携プレーないし情報の公開も含めて、医療技術やいろんな意味での診療に対するノウハウを情報提供も含めて密着した機能を果たしているということが言えるわけですね。

ということであるならば、最後に市長が強調した「市民の皆さんの温かい御理解と適切な利用についての格段の御配慮」、非常に難しいんですね、この言葉の2行。この2行の意味が、ですから緊急時の医療体制ということになると、医師や患者、職員の数も限られているので、日曜、祭日、祝日、深夜等の診療については、まずは最寄りの開業医の日ごろかかっている医師との連携を市民もよく理解をしてとっていただくことは、より一層市立病院が機能の充実した病院になっていくということをお願いしたいわけですね。 だろうと思います。もし、そうじゃなげんにゃ、後でそれなら訂正をしてください。

ということで、私が質問を再度したいのは、ということであるならば、なぜ、先ほどの市長の答弁の中でも、本市が所属する宇部・小野田医療圏におけるという言葉が、たびたび出てくるんです。先ほど壇上でも述べたように、例えば市長が住んでおられる於福の、山陰線の於福駅の近くからですよ、あの近くに住んでいて何か、新型インフルエンザも含めて心配事が起きたと。

ところが、これはもう去る先月の話ですが、山口県ですね。山口県が発表した県内の主な発熱相談センターということで、岩国の保健所、柳井の保健所、周南の保健所、防府の保健所、山口の保健所、宇部の保健所、長門の保健所、萩の保健所に下関の保健所なんです。答弁もあったように、萩の患者さんが長門病院に送られて

いるわけですね。ところが、じゃあ於福のほうから、それなりの相談を受けたときに「山大に行きなさい」というような答え方が適切なんですかね。

テレビやマスコミでは、萩に発生した患者さんが長門病院に保護されているということはみんな周知のとおりなんです。どちらのほうに走ったほうが、また日ごろの、市民がどれだけ長門病院との関係、長門市のいろんな医療との関係の結びつきがあるというのは、どの程度御理解されているのか、その辺を含めてまずお聞きしたいと思います。市長が答えるんです。

議長（秋山哲朗君） 村田市長。

市長（村田弘司君） 私の例で出されて、御質問の。今の宇部・小野田医療圏でございますね。私は於福に住んでいて、私が、もし何かあったときに、宇部医大に行ったほうがいいのか、自宅が近い、例えば長門病院に行ったらいいのかというお話だろうと思いますけれどね。この医療圏というのはそれぞれの自治体が医療圏の中に入ってきてるわけです。例えば、市の隣接しているところが実は医療圏とは反対側のところに入っているというのは、当美祢市だけにかかわらず、全国どこでもそういうことが起こると思いますね。この辺の搬送の仕方につきましては、私がちょっと即お答えするわけにはいきませんので、藤澤局長がプロでございますから、ちょっとあなた、答えて。

21番（南口彰夫君） 議長。

議長（秋山哲朗君） ちょっと、今……

21番（南口彰夫君） いいや。局長が答える筋合いのもんじゃない。あのね、私が言っているのは、じゃあ宇部・小野田医療圏というのは、だれが決めたんですか。あなたが決めたんですか。美祢市民は宇部・小野田の医療圏に入りなさいよと、ところが私、ほんとに自分の家族が具合が悪くなって、新型インフルエンザどうのこうのといったら、やっぱり近いところ行くんじゃないですか。あなたが指定した山大に行かんにゃいけないのですか。県が報告しちよるから県の言うとおりに従わんにゃいけないということをあなたが言いたいんです。その辺の答弁だから、局長じゃあ格が違うんですいね。市長が答えるべきです、そりゃあ。（「組織のことは」と呼ぶ者あり）

議長（秋山哲朗君） 村田市長。

市長（村田弘司君） 格が違うということをおっしゃられましたけれども、藤澤局

長も一生懸命やっておるのに、事業局長ですから、部長ですから。これはもう責任ある課所だということも理解していただきたいと思います。

今の宇部・小野田医療圏ですが、県がエリアとして持っている医療圏ということで、例えばですよ、救急的なことが起こったときにその医療圏にこだわって患者搬送するということはないというふうに私は理解をしております。

ですから、県が保健医療の立場で、ある一定の自治体をエリア分けするというのは、医療に限らずほかのことでいろいろあります。例えばオクトピア構想で行政とすれば、今、宇部、美祢、小野田が広域都市圏という県の仕組みの中に入っているわけです。しかしながら、私は今それにこだわらず、いろんな近くを、例えば下関、長門、萩、山口ともやっているということであります。

ですから、行政上の県がつくっておられるエリアにこだわってのことで動くことと市民に不利益が起こりますので、それは市民の方の命、安全、安心が最優先で、私は市のトップとして対応したいということを理解していただきたいと思います。

議長（秋山哲朗君） 南口議員。

21番（南口彰夫君） やっと少しだけ、本来の市長らしい答弁が出てきたのかと思います。ところが、私が言いたいのは、結局県が定めた宇部・小野田・美祢広域圏、だれがつくったんか知りませんが、ところが美祢市は、旧美祢市と秋芳、美東町と合併をして、新しいまちづくりをしなければならない重大な課題があるんです。

幾ら局長が能力的に優れていたとしても、いろんな意味での決裁権の市長の印鑑は、私も押すことができないし、なおさら藤澤局長に持つことさえすら許されないはずなんです。そこで大事なものは、今言われたように市民の保健健康医療、そうしたものが県が一方的に定めたもので、そこでそれぞれの保健所の管轄ですよと、それぞれの医療圏ですよということで。

患者や市民の研究自体をどう対処するかということに惑わされることがないようにとりわけしていかなければならないのは、旧美祢市は距離的な面、中途半端な位置にあります。旧美東町はもう、それこそ山口に近いわけです。生活、文化、経済も含めて。そうした地域と一体のまちづくりということは、あなたに課せられた課題なん。

そうすると新たなものをつくろうとする発想があるならば、ほんとに新しいまち

づくりを本気でやろうという気があるならば、少なくとも美祢市にはもともと保健所があったんです。あなたがよく知らないのかもわかりませんが。私は記憶をしちよるんです。どこにあったかも含めて。何人程度の職員が入ってされていたかも含めて、私には記憶がはっきりあります。あなたは相当記憶が薄いようですけど。その保健所の復活を求めるといぐらいの主張をされたらどうなんですか。その気がなければ、そのまま答えんでもよろしいです。

議長（秋山哲朗君） 村田市長。

市長（村田弘司君） 南口議員の質問の仕方は、近くで見るとなかなか迫力がありますね。

今の話ですね。おとついな、新聞に載ってましたね。例えば行政が独自に地方自治体ですよ、独自に設置できる、共同で設置できる機関、かつては かつてというか現在ですかね、公平委員会とか、非常に限られたものです。

これから大きな行政の改革の流れの中で、政府は出そうとしておるのが、今、無知と言われた保健所等についての、例えば私がこれから市として、先ほど申し上げたのがいろんな県の立場に、県の行政での立場によって、行政はいろいろありますよね。

主にはかつての美祢市、旧美祢市ですね。これは宇部、小野田、それから、かつては山陽町と言いましたけど、この中に入っている、旧美祢市はですね。美東、秋芳は、また違うところがありましたけれども。今全体とすればいろんな行政的な色分けは、宇部、先ほどもおっしゃられた美祢、山陽小野田、この3市の中に組み込まれているのが現状です。

これから私が今、交流拠点として大きな柱を掲げて、この市をどこに持って行くかということをしている考えです。まだ1年しかたっておりませんが、そうした中で、この我々が今、宇部・美祢・山陽小野田という行政区の中において、それを甘んじて、これがすべてだとベストだなという言い方がいいのかというのが私も今考えている。だからこそ今、我々の市にとって、これから先3万の市が光を輝かせるために、どこと連携をしてやっていけばいいかというのを実践をするために、いろんな市と今、いろんな試み、アクセス、連携を深めています。

その中で、今の保健所の共同設置なり、今からまた法が変わってきますからも考えられてきます。そのときに例えば、例えばの話ですよ、下関と美祢と長門、

下関と美祢と山口とかいう連携の中に入ったときに、美祢が真ん中にあるから美祢に保健所を設置をして、共同運営をしようやないかとかいう道もこれから出てきます。

そういうふうないろんな面も含めて、これから地方自治体に権限が下りてくる、また共同でいろんなことをやってほしいという国の方針があります。今は合併が一段落着いて、国の大方針とすれば、もう合併はこれでいいんじゃないか、自治体の。これから何をするかというのは、今新しく言われた、自治体がそれぞれ連携をして、行政コストを下げつつ市民サービスを上げていく方法がベターじゃないかという考えが出てきてます。

ですから、その流れを私は今思っていますんで、それを踏まえてこれからどういうふうな枠組みで、この市を持って行くかというのを常に頭に置いて考えています。

ですから、そのことを今病院のことにちょっとは触れて、南口議員は質問されたんでしょうけれども、そういう形で答えさせていただきたいと思います。

以上です。

議長（秋山哲朗君） 南口議員。

21番（南口彰夫君） それでは今の質問については、今市長が答えられたように、美祢市の保健医療圏というものが独自に体制として確立されていくようにぜひ検討していただきたいと思います。

これに関連しまして、先日起きたホテルでの事故で、昨日は救急の消防の側からの経過をお聞きしました。反面、最も重要な役割を果たしたのは、医療の体制ではないかと思います。このホテルがちょうどマスコミを通じて報道されたのが夕方の時間帯でしたので、恐らく日直の職員が医師なり、看護師、職員が、帰る時間帯ではなかったかと思います。そうした事態の中で、この緊急時にどのような体制がとれたのかも含めて、経過を含めて、御報告願いたいと思います。

議長（秋山哲朗君） 藤澤局長。

病院事業局長（藤澤和昭君） 只今の御質問にお答えしたいと思います。

このたび発生しました秋芳プラザでの中毒事故に関する美祢市立病院と美東病院の対応についてであります。まず事故発生直後に救急隊からの要請を受けまして、事故現場に美東病院から医院長を含めまして医師3名、職員2名、美祢市立病院から医師2名及び看護師3名をそれぞれ事故現場に派遣しております。そこでは救命

活動及び患者に対する判断、処置を実施するとともに、適切な医療機関を選定し、搬送の指示を行ったところであります。

同時に両病院では、通常の当直スタッフに加えて、医師、看護師、薬剤師及び技師を緊急呼び出しで病院に招集し、搬送されてくる患者の診断治療等に当たっております。

両病院に搬送されてきた患者は、美東病院 8 名で、うち 4 名を入院、3 名を転院、さらに高次の緊急医療体制が整っている山口大学附属病院ですとか関門医療センターがありますが、そちらに転院させ、残念ながら 1 名の方は死亡確認となりました。一方、美祢市立病院では 3 名を受け入れて、全員入院治療とさせていただきます。

今回の事故に際し、両病院の医師、看護師及び技師、その他関係職員ですが、迅速かつ適切な対応を実施し、被害の拡大を防ぐことができたと思っております。ここにあらためて本市に病院があることのありがたさ、大切さを強く思った次第であります。

今後とも市民の、また地域の安全、安心のため、この二つの病院を機能を充実強化させ努めていくことが、私に課せられた使命だと思った次第であります。

以上です。

議長（秋山哲朗君） 南口議員。

21 番（南口彰夫君） 昨日は消防長に、そうした現場の中で何か必要とするもの、不足とするもの、予算がかかるものが意見として出たものはないですかと言えば、「探知機」というお話はされたんですが、医療の現場で直接的に、あれだけの連日今も続いている、報道されている内容ですから、あれだけの事故、事件で、直接現場から、今後の課題としても必要とするもの、物心両面ですね、そうした意見があれば、この際お聞きしておきたいと思います。

議長（秋山哲朗君） 藤澤局長。

病院事業局長（藤澤和昭君） お答えしたいと思います。物資ということをお指摘なさいましたが、私はこのたびの対応につきましても、まずは医師、看護師、そういった薬剤師さん、技師さん含めまして、医療スタッフ、人材の十分な確保がこの地域に必要なであると考えております。

もちろん救急医療に必要な機器等も必要なのですが、何よりもそこに携われる医

師や看護師の皆様方を十分に確保し、両病院を維持していくことこそが一番大切であると考えております。

以上です。

議長（秋山哲朗君） 南口議員。

21番（南口彰夫君） 緊急医療体制については、今後たくさんの課題があるということで認識して終わりたいと思います。

次に、高齢者の自宅へ配達されている弁当にかかわる裁判です。

まず、高齢者の今行われている弁当の配達、旧美祢市と旧秋芳と旧美東町で、それぞれサービスの状況が違うのではないかということをお聞きしたんですが、現状はどうか。

議長（秋山哲朗君） 山田部長。

市民福祉部長（山田悦子君） それでは南口議員の御質問にお答えいたします。

配食サービスの現状でございますが、事業所につきましては美祢地域において4事業所、それから美東地域において1事業所、秋芳地域で1事業所に事業を委託をしております。

20年度の実利用者数ですが、美祢地域の事業所においては94名、それから美東地域では8名、それから秋芳地域の事業所では22名に配食サービスを行っております。

それから配食の食数、実績ですが、美祢地域では1万2,010食、それから美東地域での事業所では1,601食、秋芳地域の事業所では1,339食となっております。

配食の状況ですが、配食サービスとして対応できるのは、一人1日1食の基準を設けて対応をしております。この6事業所のうち、一週間のうちに対応可能な曜日が決まっている事業所が4事業所あります。その中で美祢地域で1事業所と美東地域で1事業所については、毎日対応が可能となっております。その中でも昼食のみ、それから夕食のみの対応という事業所は6事業所のうち5事業所となっており、1カ所1事業所のみが昼食でも夕食でもどちらも対応できるということになっております。

昼食、それから夕食等の別、できる範囲ですね。それから各実施できる曜日がいろいろ事業所によって異なっておりますので、配食サービスを希望される方は複数

の事業所の組み合わせによりまして、一週間、7日間、一日一食を注文し、配食サービスを受けることも可能となっております。

以上です。

議長（秋山哲朗君） 南口議員。

21番（南口彰夫君） 今から突っ込んだ質問をしますので、時間の関係がありますので、一方的に話します。間違いがあれば、その都度手を挙げて「うそだ」と、「うそをつくな」と言って、はっきり言ってください。

まず配食事業の目的と事業内容、これは市の事業契約書等、事業所との契約書等に書かれている内容で事業目的として、在宅のひとり暮らし、高齢者等独居、準独居に対し、栄養バランスのとれた食事を提供することによって、当該高齢者等の食生活の向上と健康の保持に資することを目的とするということだと思いますね。

次に対象者、おおむね65歳以上の単身世帯、さらにおおむね65歳以上の高齢者のみの世帯、3番目に重度身体障害者、その他、市長が特に必要と認める世帯、ということで、高齢に伴う心身の機能の低下、心身の障害または傷病等の理由により食事の調理が困難なものとするということが書かれているわけですね。間違いありませんか。

さらに事業内容として、栄養のバランスのとれた食事を調理し、利用者宅への訪問により定期的に提供するとともに、訪問の際当該利用者の、お年寄りなり障害者の安否の確認を行い健康状態に異常があったとき等は、関係機関等に連絡等を行うものとする。

これが実施されたときに議会の議論の中では、自主的に弁当を配達した際、安否の確認を行うと、その安否の確認が正常じゃない場合は、近隣の民生委員、近親者に連絡がつかない場合ですね、地元の民生委員もしくは容体が悪いと判断された場合は消防署、さらに異常な状態があれば警察等に届け出ると。こうした事態は既に現場段階では、年間幾度か発生し、対応をしているのが事実ではないかと思います。

こうした中で、若干裁判に触れさせていただきます。先ほど市長が報告をされたように、既に19年度から始まって14回の審理が行われています。しかしながら、既に2年前に起こされた訴訟が、何ら進展を見られてないんです。この4件とも一度も結審をしてないんですね。そこに大きな疑問が出てくるんですが。

その疑問がどうかという前に、まず1件目の訴訟、平成19年4月に訴状が提出

されていますが、その概略ですね、概略は私のかかわる弁護士に聞いた範囲内では、簡単に述べるとするならば、市内で初の弁当の配達サービスを美祢市が行うということで、公開で公募を募ったが、1社も出なかったため、議論の中で当時株式会社タケオカがその委託契約を受けたと。

ところが、その翌年度にNPOランチ工房が設立をされて、委託契約はNPOランチ工房となされるにいったと。しかしながら19年度4月に契約をした範囲内の中に弁当箱の貸与、弁当箱を貸しつけるということが株式会社タケオカのままになったまま、NPO萌がその弁当箱を不当にも使い続けているというのが第1回目の訴訟の中に、文面に主張されていることだと理解しています。

こうした、俗に言う、最初にタケオカに配食サービスを委託契約を結んだと。そのために必要な弁当箱を提供したと。しかし、翌年度ランチ工房美祢が設立をされたので、配食サービスの委託契約はランチ工房に契約を変えたと。しかしながら、こちらのほうで弁当箱の貸与の契約がそのままになっていたと。これは確かに行政事務、行政業務上における不備なんですね。これは裁判所でも裁判官がそれを指摘して、既に改善をするようにということで改善がなされていることなんです。

しかし、それに怠っていることが違法だということで、その違法という判決を求められ、さらに19年6月22日はこれに関連をして弁当が1食1,000円が高過ぎると、通常ほか弁等ほかの配達、もしくはタケオカで独自に売っている弁当を見ても600円程度が妥当だと。だから400円を返還を請求すると、総額400万円返せと、タケオカに主張しろというのが2番目の裁判。

ところが先ほど述べたように、配食サービスというものには、必要なときにはヘルパーとしての役割を果たすようにということで委託業務の契約等に明記されているわけですね。そういう、そのほか弁で売っている弁当とは違うという性格をきちんとされているにもかかわらず、しかし原告は、この弁当の単価が不当であるから400万円返してもらえと。

その後、20年の2月4日、これは臼井さんが原告になっておられますが、193万5,000円、約200万円をこれに絡んで同じようにタケオカ並びにランチ工房が不当であるということで、訴訟で返還請求、さらに20年の9月19日の訴訟では、約290万円、似たり寄ったりの主張ではないかと思います。似たり寄ったりという言い方が問題であるならば、原告者は後日私を被告人にし、訴訟を

起こすようにぜひお願いをしておきたいと思います。

そこで、こうした経過を前々市長、前市長から配食サービスのあり方、しかしながら現状は既に旧美祢市と旧秋芳町、旧美東町で大きく違いが出てきているんですね。それは何かと云えば、毎日必要であれば配食を求められるところもあれば、週に2度か3度しか求めることができないということで行政サービスの格差が生まれていると。

市長は、既にそれを承知の上で就任して2年目に、開洞100周年、開洞100周年と観光事業は大きく、東京まで行ってイベント事業を発表するなど目立つような市長としての活躍をされていますが、こうした実際に配食の現状、さらには格差が生まれているという状況を「知らん」という無責任な発言は絶対あり得んわけですから、知っておきながらなぜ放置をしているのか。その辺のところを率直に短時間でお答えください。

議長（秋山哲朗君） 南口議員、多少時間が過ぎておりますけれども。

21番（南口彰夫君） うん、一言でいい。

議長（秋山哲朗君） その辺をわきまえて質問していただきたいと思います。

21番（南口彰夫君） すぐ終わる。

議長（秋山哲朗君） 村田市長。

市長（村田弘司君） 南口議員の御質問ですが、非常に大切な市民の方に対するサービスですね。特に、きのうも「弱者」という言葉は私は嫌いだと説明申し上げましたけど、お年を召した方にとって、それからお体に差し障りがある方に対する食事を御提供申し上げる、非常に大事な仕事でございますので、今の旧一市二町、今でいえばすべて同じ市ですから、同じような対応ができればなと思っております。

これも原課のほうと早急に今協議を詰めようとしているところであります。

以上でございます。

議長（秋山哲朗君） 南口議員。

21番（南口彰夫君） 最後に一言。今、高齢者向けの配食サービスを一言で言うならば、行政の差別的事業なんです。明らかにサービスがまともに、心身ともに障害があつて食事調理等ができない方々及びほとんど単身の世帯、高齢者のみの世帯とか、配食サービスの対象者をきちんと厳格にしておきながら、食事をつくるのが困難だという世帯に対して、サービスがですね、1日最高1食なんです。中には、

秋芳・美東に行きや、週に2回と、こんな弁当、1日1度の配食、週に2回の弁当で、その障害者の世帯、高齢者の世帯、しかも調理が困難な世帯がどうやって生活して生きていくんか、市長、全く理解なされてないんじゃないかと、その辺の議論をすれば時間がないので、こうした矛盾のある制度、しかも訴訟が4本も起こされて、しかも業者に対して損害賠償を求めると、これは今後ますますそういったこういう行政のサービスに協力しようという業者は、恐らく、これをどんどんどんどん明らかにしていけば、みんな手を引いてしまうだろうと思う。

しかも制度的に最も当初つくったときから改善を重ねていくという趣旨が、全く無視をされている。そういう差別的な行政サービスのあり方は見直す必要があるし、直ちに廃止すると一たん、廃止してリセットして、もう一度組み立て直すことが必要だと、私は主張しますが、最後に一言だけお答えください。差別まで言われちよるんやけ、何か言わんと済まんのよ。

議長（秋山哲朗君） 村田市長。

市長（村田弘司君） まず、「差別」という言葉は非常に不適切だと思いますので、訂正をお願いしたいと思います。

先ほど申し上げたように、大切な市民の方に対するサービスです。今、こういうふうな4件も訴訟を起こされまして、このままいくと、この事業が停滞する、ストップするという恐れもあります。そうすると、だれが一番困られるかということになりますと、今サービスを受けておられる、俗にいう弱者の方々ということになります。

今、この事業を停止をさせてリセットさせたらどうかというお話もありました。しかしながら、それをするとお困りになる方というのは、ほんとに、今ほんとに求められておられる方になりますので、十分にそれを考えなくちゃいけない。

それと今、食べられない人はほんとに一日一食だけのサービスでいいのかということもあります。おっしゃるとおりだろうと思います。これはできた当初は、近隣が一日一食ということでスタートしたということと、一日一食しか業者が、これを受けられた団体側が対応できないということで、一食で始まったような経緯もあるようですけれども、その辺も考えていく必要があるなということも考えています。

以上であります。

議長（秋山哲朗君） はい。ご苦労さまです。

21番(南口彰夫君) まあ、いらんことじゃけど、差別が不適切だということであれば、直ちに廃止するか、大幅な見直しをされるか、その結果を見て心から真摯に改めることがあれば、その都度考えたいと思います。

以上です。

.....
議長(秋山哲朗君) この際、暫時午後1時まで休憩をいたしたいと思います。

午前11時35分休憩

.....
午後 1時12分再開

副議長(河村 淳君) 大変お待たせをいたしました。

休憩前に続き会議を開きます。議長が所用のため席を外しておりますので、これより副議長の私が議長の職務を務めさせていただきます。御協力のほどよろしくお願いいたします。

午前中の南口議員の一般質問において説明不足がありましたので、村田市長から発言の申し出がありましたので、ここで発言を許可いたします。村田市長。

市長(村田弘司君) お許しを得ましたので、若干午前中の一般質問に対する回答につきまして、補足をさせていただきたいと思います。

南口議員の質問に対して、私はいろいろ御答弁申し上げたわけですが、時間切れということで説明が十分でないまま、南口議員の持ち時間が終わったということで、誤解等を与える可能性がありますので、私のほうから補足をさせていただきたいと思います。

最後に南口議員のほうより、旧本部のほう、美東、それから美祢市、それから業者に係ることについて、かかわっておられる弁当の宅配について、高齢者の方の、それから身体障害をお持ちの方に対する弁当配布についてのことについての「差別」という言葉が使われましたので、適当でないから取り消していただきたいということを申し上げたところでございます。

取り消してくれと、もらいたいということを私が申し上げた真意というのは、業者間、6社ございますけれども、それぞれの業者に対して、特定の業者に対して、私のほうが差別をしちよるとか、どこの業者だけを引き上げて、美徳を与えておるということは「全くない」ということを申し添えたいと思います。

それと、事業そのものですね、この弁当の宅配に対する事業そのもの、福祉サイドがやっております事業そのものについても、全くいろんなことに対して差別は生じさせておらないというふうに考えていただきたいと思います。

市は、非常に平等な立場でこの仕事をさせていただいておりますし、このことについては裁判にかかわることということで、4件の裁判のことを御質問になって私が答えたわけでございますけれども、この裁判は我々は被告の立場ということで受けて立っておりますけれども、我々のやっている仕事というのは、どこから追求されようと一点の曇りもなく仕事しておるということをつけ加えさせていただきたいと思います。

以上でございます。

.....
副議長（河村 淳君） ありがとうございます。

一般質問を続行いたします。

河本芳久議員。

〔河本芳久君 登壇〕

10番（河本芳久君） 明政会所属の河本芳久でございます。通告に基づき、まず最初に本市の農業振興に関し一般質問を行います。

農業問題については、昨日の本議会においても取り上げられ、いろいろ論議が交わされておりました。今日、農業を取り巻く環境は非常に厳しく、とりわけ地理的条件の悪い中山間地の農業は生産コストが高かつき、米余りの中で米価は年々安くなっております。それがために経営的に成り立たなくなっている。また、担い手の確保も困難で、高齢者や女性が中心となって農業を行っているというのが今日の美祢市の実態だと、私は受けとめております。

さて、国は、いろいろと農政改革を推進してきましたが、いずれ米は市場化、自由化されていくのではないかと、こう思っておるわけでございます。そうすると、供給が需要を上回っている米価は半値以下になることも予想されます。これから先、地域の農業はどうなっていくのか、また、担い手の確保が困難になった農村はどうなっていくのか、とても不安でございます。

美祢市の中核産業は、やはり農業です。周辺地域はすべて農村であり、多くの市民は農業を営んで暮らしています。しかも高齢者です。農業振興は、市民の暮らし

を守ることに直接つながっております。これからの農業の振興をどのように図っていかれるのか、村田市長の農業に対する姿勢について、私は一般質問をさせていただきます。

そのまず第1点は、今国が進めようとしている農業政策が、個々の農家にどれだけ周知徹底されているか、また個々の農家を救う対応がなされているのか、これまで農政の中心であった生産調整支援策、いわゆる減反政策でございますが、これは支援の対象となるもの、担い手はすべての農家ということが対象でございましたが、19年度からこの経営安定対策にかかわる大きな農政の転換がございました。その中身は、農業法人や認定農業者等の特定な農業者を対象に絞り込んだ支援策にかわっているのでございます。それがために、大半の農家は国の施策に浴することができない状況になっており、またその国の農政についての情報も十分伝わりにくい状況が生じております。

今美祢市には、2005年ですが、ちょっと古いんですが、農業センサスによれば3,000余りの農家がありまして、その中で農業を主としている農家は1,481、そして国の支援策にのっかかる農業従事者は、認定農業者が122名、法人9、特定農業団体9、これらの恩恵を受ける農家の割合は数%に過ぎません。

今国は、このたび経済危機対策を実行するため、2009年度の補正予算を計上しておりますが、その額は15兆4,000億円。膨大な財政支出になっております。この中には農業振興に関する諸施策が盛り込まれていると伺っております。その補正予算は1年限りで、これから3月までに執行するということです。そうなるとう当然、情報がないとそれに対応しきれません。

そういうことで、この農林水産省が進めている諸施策の情報収集と提供について、どのような対応をなされているのか。いわゆる国は、担い手に支援を集中化、重点化していく方針で今回の補正予算も組まれているように伺っていますが、これについてこれまで国の交付金の支払いについて、美祢地域水田農業推進協議会という、その組織にかなり依存し、そしてこの組織も21年度から大幅ないわゆる支援策を改定してもらっております。例えば、これまで減反で、調整水田でこの減反を行ったものに対しては4,000円程度の支援をやるということにずっとなっておりますが、21年度から、こういう調整水田に対する支援策は一切ございません。

そういったことで、担い手に厚く一般農家の恩恵に浴さない農政が今進められて

おります。やはり国の施策としては、担い手確保のためにそういう主張やっているわけですが、やはりこれに対して市の農政はどういう姿勢を示しておられるのか、この辺も私は知りたいところでございます。

それから、農業機械の導入に対して、これまでいろいろな県の支援策がございました。特定の農業団体や、いろいろそれに対応していく担い手についても支援策がございましたが、21年度からは、法人以外にはこういった施策が全部打ち切られました。本市も21年度予算の中には、何件かのこの制度事業を取り入れる予定でありましたが、県の施策が方向転換したために、この支援策は受けられなくなっております。

こういったことも踏まえて、この補正予算に盛り込まれている予算の中に、こういった支援策はどうなっているのか。こういった農業振興にかかわり、特に今回の補正予算につながるこの支援策について、きょうはお伺いしたいと思っております。

次に、合併前の美祢市、美東、秋芳、それぞれの市町で、行政と住民の間で取り交わされている約束事、秋芳町においては、別府地区の農業集落排水が建設され、この建設に伴って秋芳町長と水田用水組合の総代との間で交わされた約束事でございますが、念書が平成9年5月1日に交換されております。合併以前に約束された事項であっても、これは新しい美祢市に引き継ぐ、こういったことで大半のことは合意されておりますが、この点を再確認したいと思っております。

というのは、この約束事、念書の中には四つの項目がございますが、二つの事項については既に事業も完了し、お互いに了解を得ておりますが、未解決の二つの事案について、その後どのようなになっているかという声が私のほうにも何件か届いてまいりましたので、改めてこの場で市長のお考えをお伺いしたいのです。

その第1点は、農業集落排水のいわゆる排水でございますが、汚水が厚東川に排出されると、流れ出ていくと、そのために下流の農家の方々が、水質の変化がこの排水がもとで下流に藻等の発生が生じた場合は、現状より悪くなったときには行政の責任において対応するという約束事が盛り込まれております。

現在、排水口が設置してあります瀬戸地区の厚東川から下流域にはかなりの青藻が発生しております。特に水田いぜの遺跡の上流には、この減少が顕著に見受けられます。というのは、この青藻が水田、これに流れ込んでおる。稲を植えたその田に流れ込んで、田植え後の稲にいろいろな被害を及ぼしておる。こういった苦情も

聞いておりますので、この藻が田に流れ込まないような対応について、約束されておりますが、その後の地域住民とのやりとりについて、どういうふうな状況になっているか、お伺いしたいところでございます。

それから2点目として、市道である厚東川にかかっております水田橋でございますが、この改修工事について約束されております。もう10年以上もたっておりますが、何ら進捗がない。地元の人々にとっては、生活道路でございますし、この道路の改修について強い要望が出ているわけでございます。橋の幅も非常に狭く、橋の上、車が通るときに人がよけなかつたら、立ち止まってよけておかなかつたら通行ができないくらいの狭さでございます。それから亀裂も入っております。改修が非常に急がれておりますが、市の誠意ある対応を住民は願っておられますが、地域の願いをしっかりと受けとめられ、市長として前向きな対応ができるかどうか、この点についてもお答え願いたいと思っております。

次に、質問の3点目は、文化財の現状と課題について、これは教育長にお尋ねいたします。

最初に、国や県、市が指定している文化財の保護管理状況についてお尋ねします。貴重な文化財がこのままであると、破損したり、価値が薄れてくる、損傷の恐れもある、このままでいいのか、そういう声を何回も受けてまいりましたので、私もそういう指定文化財を何件か見て回りました。

美祢市には、先人が残してくれた貴重な文化財や史跡名勝天然記念物がかなり多くありますが、このうち法律や条令で指定文化財として保護されているものとしたら、まだその価値について十分調査がなされていないが、しかし貴重なものだと評価されているものもかなりございます。これらの文化財を保護、また後世に伝えていくことは地方公共団体の責務ともされております。

今美祢市には、国指定の文化財が8件、県指定が9件、市指定が65件ございます。中でも特別天然記念物である秋芳洞の保護・管理については、かなりの問題点が指摘されております。これについては今回触れませんが、いずれこの管理状況については、もっと詳しく報告しながら対応についてただしていきたいと思っております。

きょうは、国指定の共和のカシの森と市指定の国秀遺跡と、嘉万小学校のアカメヤナギの、この3件、これを中心に一つ、指定文化財についてはどういう実態であ

るか、お聞きしたいと考えております。

というのは、市指定の文化財保護条例では、第10条に教育委員会は指定文化財の管理が適当でないとき認められるときには、管理者に改善を勧告することができるが規定される。勧告しなくてはならない。しかし、国秀遺跡と嘉万小のアカメヤナギは、二つとも市の所有地、いわゆる市の管理下にある。そういうことで、これは市においてどのように現状になっているか、どう把握されているか、これまず最初にお聞きしたい。

続いて、共和のカシの森のカシが、最近、昨年ですが、折れて、もう国のほうもこの文化財の指定を解除する旨の報道もなされていますが、この共和のカシの森の現状と、これからの対応についてもお聞きしたいと思います。

続いて、まだ指定されていない重要な文化財の調査と保護について、お尋ねいたします。

国指定の文化財として、今、保護が叫ばれているのが別府地区の江原台にあります西秋吉台鷹ヶ穴洞窟でございます。別名「すげー洞」と言うような呼び方もしておられますが、1981年に地理学、地質学、考古学、水理学、さらには洞穴学等の日本を代表する学者が学術調査団を組織し、詳しく調査研究され、その報告書もできております。

その報告書を読んで見ますと、既存の国指定の天然記念物である秋芳洞を初め四つの石灰洞と比較しても、極めて独自性、また天然記念物としての価値が高い、いわゆるこういう洞穴、しかも水底の面、そして洞窟の出てくる課程、いろいろ学術的な面において、また長さにおいては秋芳洞より長い、そういうすばらしい洞窟のあることが学術調査の結果判明しておりますが、現段階では保存状態がとてもいいわけです。

しかし、この地域は鉱区権が既に設定されております。いずれ鉱山として開発する恐れもございます。こういった面から、国指定の天然記念物として、この鷹ヶ穴の国指定への働きかけ、またこの報告書の中にも、学術観光の面から、この保存開発について積極的な対応が待たれるというような文言もございます。このことについて、教育長の課題じゃなくて、市長の課題として、これをどう対応していかれるか、これも一つの課題だと受けとめております。

このように、数多くの文化財ございますが、岩永本郷の内ヶ島の石棺群について

も、お尋ねしておきたいと思います。これは昭和37年に発見され、町は史跡公園として整備するよう土地の買い上げ、保存に乗り出しておりましたが、その後あいたままの状態になっている。そのまま未指定でもございます。これは弥生時代の箱式石棺群として山口の朝田墳墓群と同じような、いわゆる2,000年以上前の人々の暮らしを知る貴重な資料にもなっています。この保存についてどのようになっているか、お伺いします。

次に、こういった貴重な文化財がございしますが、学校教育におかれまして、地域の文化を受け継ぎ郷土発展のために、子供たちがこういう貴重な先人の遺跡を学んでいく、そういうことから、まず郷土をよく知ることがふるさとを愛することにつながるものでございますし、身近な郷土の歴史を通して先人の業績を学び、郷土発展の心を育てるということはとても重要なことでございます。

ついでには、それがための郷土読本というのが、各地域で編さんされ、活用されておりますが、この郷土教育推進のために、新市になった本市として一つ、郷土読本についてどのような取り組みを考えておられますか。

また、子供へのふるさとを愛する心培うための教育の推進が現在どのように行われているか、お答えを教育長さんをお願いしたいと思います。

以上をもちまして、壇上での一般質問を終わります。

〔河本芳久君 発言席に着く〕

副議長（河村 淳君） 村田市長。

〔市長 村田弘司君 登壇〕

市長（村田弘司君） 河本議員の御質問にお答えをいたします。

1件目の経済危機対策に関するもののうち、1点目の経済危機対策に係る国の諸施策にかかわる情報の収集と提供についてでございますけれども、今回の経済危機対策にかかわる情報は緊急を要するものであり、国及び県からの情報提供は主にメール、それからファクスにより、それぞれの関係部署から我々のところに情報が提供されます。

市から関係団体へ対する発信方法についても同様に、メールやファクス、電話などにより周知を行っておるところです。

なお、今回の経済危機対策事業にかかわる説明会などにつきましても、県の担当部署ごとに行われる予定であり、市といたしましても、事前の情報収集やその対応

に鋭意努力を行っておるところであります。

今後、事業の詳細が判明した後に、直ちに関係団体と情報を共有し連携をとりながら事業の精査を行うとともに、速やかに事業に取り組んでいけるよう努めてまいりたいというふうに考えております。

2点目の担い手の育成、確保についてであります。

本市の農業は高齢化や後継者不足などによりまして、担い手や農業生産法人等に頼らざるを得ない状況にあることは、先ほどの御質問の中でありましたように御承知のとおりであり、市といたしましても、担い手の育成は重要な施策であるというふうに私も考えておるところでございます。

今回の経済危機対策には、担い手への農地集積に向けた農地集積加速化事業というものも盛り込まれておりまして、本美祢市といたしましても、県、それからＪＡとの連携をもとに経営技術面の指導や有利な助成事業の活用などによりまして、経営環境の整備を促進することによりまして、担い手の育成支援を行ってまいりたいというふうに考えておるところでございます。

また、農地の保全管理を図るために、認定農業者等担い手の育成に併せまして、集落営農の組織化促進とともに、特定農業団体から農業法人への経営体系確立の促進につきましても、努力をしてみたいというふうに考えております。

なお、産地づくり交付金事業は今年度から「産地確立交付金事業」と名称を改めまして、引き続き取り組まれておるところでございます。

この制度は地域の実情に併せまして、市並びに町を単位とする地域ごとに交付金の対象品目、それから単価などが設定される仕組みとなっております。本美祢市におきましても市を初め、農業委員会、それから農業者、それからＪＡ、農業生産法人などで組織をされます美祢市水田農業推進協議会におきまして、交付金対象品目や配分等が協議・決定をされてます。交付金総額も年々減少する中で、配分等にかなり苦慮されている状況ですが、この制度を最大限に活用することで、本市の農業振興の一助となることを願っているものでございます。

それから、3点目の農業用機械導入に対する支援ですが、平成20年度において県単独補助事業の農業用機械導入事業における予算が、大幅に縮小されました。これによりまして、平成20年度の補助の対象から外れて、翌年度以降の申請を余儀なくされた団体の農業機械の導入計画が、今回の経済対策事業の対象となる見通し

となるということで、県単独補助事業から国庫補助事業の集落営農法人化等緊急整備推進事業に変更しての申請を、検討を今現在しております。

なお、事業の詳細が示され次第、事業内容の精査とともに可能な限り有利な補助事業を活用して、農業者の方の経営支援に向けて鋭意努力をしまいたいというふうに思っています。

次に、2件目の行政と住民の間で交わされる約束事についてであります。

合併前の旧団体の長が約束したことにつきましては、新市に引き継ぎ、諸般の事情を勘案し尊重すべきものであるということは、私は認識をいたしております。

従いまして、質問のありました別府地区の農業集落排水処理場建設に伴い、厚東川の水田・用水路総代と旧秋芳町長との間に平成9年に交わされている念書につきましても、基本的には冒頭申し上げたことと同様であると考えております。

案件の一つであります水田橋の歩道橋の設置につきましては、この念書の中で、市道改良の見地も含め全面改築に向け調査し、着手するとしていますが、先ほど質問の中にあつたように、旧秋芳町時代からいまだ未着手のままとなっています。

現在、県道美東秋芳西寺線の瀬戸地域におきまして、美祢土木事務所によります落石防止事業が平成10年から実施をされまして、歩道等の整備については現在、調査・検討されており、市の水田橋と密接に関係をすることから、併せて調査・検討を行っておるところであります。

今後、県の動向を把握しつつ、財政状況を踏まえ、歩道橋の設置等につきまして、関係者の方々に説明できるものとなりますよう努めてまいりたいというふうに考えておるところです。

それから、第3の文化財保護の現状と課題につきましては、教育長より答弁をいたさせます。

私の壇上での答弁は以上であります。

副議長（河村 淳君） 永富教育長。

〔教育長 永富康文君 登壇〕

教育長（永富康文君） 河本議員の文化財保護の現状と課題についての御質問にお答え申し上げます。

まず、指定文化財の保護管理状況についてのうち、1点目の国指定解除後の共和のカシの森の対応についてであります。

共和のカシの森は、大正14年10月に国の天然記念物に指定された1株のイチイガシの大木で、目通り幹周り約7.6メートル、高さ約33メートルの日本有数の巨樹でした。まことに残念ではありますが、昨年2月の積雪による被害で根元近くの幹から折れ、樹木医の現地調査により回復は困難と判断されたため、指定解除の取組をとったところであります。

本年5月15日に、文部科学大臣の諮問機関であります文化審議会が開催され、国指定の解除が答申されたところであります。恐らく夏ごろの官報で告示されるのではないかと考えております。

指定解除が正式に確定した後の対応につきましては、長年、地域のシンボルとして多くの方々から親しまれた木でありますので、共和のカシの森を後世にぜひとも語り継ぎたいと考えております。現地には既存の石碑や看板があり、またカシの木の根元が残存し、巨木であったことがうかがい知れますので、何らかの形でその存在を後世に残していきたいと考えております。

しかし、土地の所有者は個人でありますので、所有者の方の意向や地域の方々の御意見などをお聞きし、でき得ることから実施してまいりたいと考えております。

2点目の保護管理の不適正な指定文化財についてであります。

現在市内には、秋吉台や長登銅山跡を初めとしまして、国・県・市指定の文化財が82件あり、広域にわたり散在してあります。これらにつきましては、所有者や地元の御協力を得て保護管理に努めているところであります。

只今の保存・管理等が不適正であるとの御指摘がありました国秀遺跡や嘉万小学校のアカメヤナギにつきましては、昨年からの懸案事項の一つでありましたが、何分限られた予算でもありますので、緊急性の高いものから順次実施しております。

国秀遺跡の屋根の葺きかえ、補修等につきましては、今後検討してまいりたいと考えております。なお、アカメヤナギにつきましては、樹木医に診断をしていただき、今後の対応を検討していきたいと考えております。

次に、未指定文化財の調査と保護についてであります。

市内には指定文化財だけでなく、埋蔵文化財をはじめ多数の未指定文化財も存在しております。これらの文化財につきましても調査し、重要なものにつきましては今後指定することも考えております。議員御指摘の内ヶ島箱式石棺群につきましては、秋芳町岩永に存在する弥生時代から古墳時代にかけての埋葬跡で、市内に分布

する250カ所を超える埋蔵文化財包蔵地の一つであります。

内ヶ島箱式石棺群は既に公有地化され、以前は保存・整備がなされていたようですが、現在は竹やササなどにより隠れた状態となっております。公有地でもありませんし、早急に草刈り等を行い、再度、整備・保存に向けて取り組みたいと考えております。

また、西秋吉台鷹ヶ穴石灰洞は、秋芳町別府にあり、入り口は40メートル以上の竪穴から始まり、支洞合わせて総延長は4,500メートルにも及ぶ洞窟であります。しかし、入り口が40メートル以上ある竪穴であることや、洞窟がある位置からして、当面開発される心配はないものと思われれます。

なお、採石業者の鉱区に入っていることにつきましては、業者と相談しながら今後その保護に努めてまいりたいと考えております。

続きまして、文化財の活用についてであります。

現在、市内全般にわたり郷土を紹介しております冊子は、平成21年3月に発行しました小学生の郷土学習用副読本「ふるさと美祢」がありまして、この中に文化財などが紹介されております。また、指定文化財すべてを掲載した「美祢市の文化財」というマップもことし3月に印刷し、市内の全中学校に配布し、授業などで活用していただいております。これらを使いながら、児童・生徒たちにふるさとのよさを知り、ふるさとを愛する心の育成に今後とも努めてまいりたいと考えております。

なお、「美祢市の文化財」につきましては、全戸に配布し、文化財の啓発・広報に努めておりますし、さらに美祢市のホームページでも文化財の紹介を行っております。これらとは別に郷土読本のような冊子の作成ということにつきましては、前述の資料等の活用状況等も勘案しながら、今後、十分検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

副議長（河村 淳君） 河本議員。

10番（河本芳久君） 市長答弁について質問させていただきます。

今、国の補正予算にかかわる情報収集や、その施策について、積極的な対応をしていきたい、こういう前向きな姿勢もございましたが、私、一番心配するのは、担い手とか組織を持った農家の方、これには情報も伝わり、また対応もできるわけで

すが、大半の農家の方はそういう国の施策の恩恵に浴されない方、それがために情報も伝わってない。今回のこのような国の事業に対して、やはりより多くの農家にこういう制度事業もあり、こういう組織をつくられれば、農業振興に少しでも役に立ちますよという、そういう積極的な農家への働きかけ、これが私は必要だと思っているんです。それが見えてこない。というのは、今、水田対策推進協議会が今まで、そういうのの団体等に配布した資料によりますと、大体国から、それから農家の方が、反当たり2,000円。合併以前は秋芳町においては、反当たり4,000円の拠出をし、そして国の交付金を一緒にして、それを農業振興のためにどのように配分するかという、その協議会と配分された状況を各農家に周知徹底できるような情報提供をされ、そしてそれにのっかかるために、いろいろな農家は対応してまいりました。

合併後は、当時美祢市のほうは拠出金がない。そこで減反を推進する立場から、反当たり2,000円という拠出、そして総額では約1億9,000万円ぐらいのお金、それが1,000万円ぐらい21年度は少なくなっていますが、その国の助成金と農家の方が出した拠出金は合わせて美祢市の農業振興をどのように支えていくかという、その協議会の中に市がどういうふうなかかわり方をしておるかということ。そういうふうな、こういう方向で本市の農業を進展させたい。例えば法人とか認定は少ないが多くの農家の方にも、やはり支援をしていただく、そういう一つの方向づけがはっきりイメージされれば、そこに配分についての協議がなされるわけですが。

21年度からは担い手に厚く、一般農家の調整水田には補助対象支援は打ち切っておるわけです。そういった事態があるのはイコール国の担い手、法人化に向けてやりなさいと、まだ美祢市は9団体しか法人化していないんです。やるためにはいろいろ障壁もありましょう。

そういうことで私は、より多くの農家がかかわっている美祢市の、そして中山間地の農家の方々が持続的に農業を振興していくためには、そういった零細なわずかの田んぼを耕して、しかし頑張っておられる。この人たちにどういう手を差し伸べていくか。併せて担い手等をしっかり確保するために、こういった制度事業をしっかりと取り入れて座談会等をもちまして、こういう組織づくりにどれだけ市がかかわっていただけるかということ、このあたりが農業に対する姿勢につながるんじゃないかな

ろうかと。

そういうことで、今市長がいろいろ頑張っていくと言われましたが、今一度今回は国の施策にかかわる問題でございましたけど、本市独自の目に見える施策なり、対応をしっかりしていただきたい。これは時間がございませんので、その要望で私はこの農業振興については終わりますが、市長もやはり農業に対する思いをしっかりと語られましたので、ひとつよろしく願いいたします。

それから、住民と交わされている約束事の中で、橋の歩道橋なり改築については着手していないが、今県道の改修と併せる、こういう市長の答弁がございましたが、地元の方々は長い間、懸案事項を我慢してきた。これを県道との問題で、その問題については直接前向きな姿勢を示されないということは、これはいかなもんだらうかと。県道とのつながりがあることは今後の問題として、しかしこれまで誠意ある対応を示してこられなかったことに対する地元の声が強くなってることだけは、十分に知っていただきたい。

そして、もし県道のことがわかって改修するというになれば、当然今度は地元と協議、地元の協力がなかったら次の段階には進まれない。だから、事前にそういう問題のあることに対して、市は誠意ある対応をしてほしい。このことについて要望して、市長の答弁については回答は今回はいただかないことにして（「ちょっと合わせてください」と呼ぶ者あり）そうですか。それじゃあひとつよろしく願いします。

副議長（河村 淳君） 村田市長。

市長（村田弘司君） 今の覚え書きに関することですが、あたかも我々新しい市が長年放置をしてきたという言い方の再質問というか、私の回答をもたれない。説明みたいなことをやって、河本議員は旧秋芳町の町会議員でしたからおわかりでしょうけれども、秋芳町長に対して出された要望であって、秋芳町とそれから総代との間に交わされた覚え書きということで、放置をされておったのは ということです。でしょ。それを引き継いで新市がこれから、それこそ新市は真摯な気持ちですよ、水橋地区の方といろいろ前向きにやろうということを今申し上げたのであって、我々があたかもほうっておるというふうな誤解を与えかねないような質問は控えていただきたい。

以上でございます。

副議長（河村 淳君） 河本議員。

10番（河本芳久君） 今市長の答弁の中で、県道西寺線という今の、県道とのかかりとの中で云々と言われた、このことについてはやはりかかりはありましようが、住民にとってはやはり長年の懸案、新市はそれに対してどう対処していただけるだろうかと、こういう気持ちが非常に強い。このことを私は住民にかわって今訴えたわけでございます。

だから、やはりこれから県道改修等のつながりもあれば、当然地域住民の協力なくしては今度は迂回することもできませんので、その辺のところを十分に配慮していただきたい。

次に、教育長さんに指定文化財の面でございますが、今国秀遺跡については、議員の皆さん方も、実は国秀遺跡は厚東川の上流嘉万地区にございますが、これは120戸余りの奈良時代、古墳時代の集落跡として、山口県で最大の集落跡です。この集落跡の史跡公園として市の指定、また保存されてきた経緯は、これは渡来人、新羅系の文化を持って来られた人たちがそこに居住し、銅生産にかかわるような一つの工房を持っておられた。そういう面で新羅系の統一した一つの様式の土器が住居跡から取出したのは、これは西日本では初めての遺跡である。

また、銅生産にかかわる「嘉万」という字は「かまど」なんですね。窯、いわゆる炭窯もセメントは窯、この嘉万、だから鉱山に非常に深いかかりがある。窯、かまど、これが後の奈良時代の天平のいわゆる東大寺、この奈良の洞窟、いわゆる銅山開発、当然ここにつながっている。その最初の渡来人の引いた文化、そしてその技術。

そういったことで、今2戸の住居跡が復元されておりますが、屋根がもう全部崩壊して、雨漏りがしている。唯一の戸口がない、復元された遺物等が展示されておりますが、盗難の恐れもある。せっかく史跡公園として見学者も多いが、そういう整備の状態では、これは崩壊することも忍びがたいんじゃないか、もっと積極的な対応をと。予算がないからと言われましたが、こういった問題については積極的な対応をお願いしたい。

それから、共和のカシの森には、県道の入り口には「日本第2の巨木カシの森」という案内板もある。そして、大正14年に指定されたときの記念碑も立派な記念碑が建っております。それからカシの森そのものが折れて、今残骸が散らばってい

ます。これは地元の人が10アールばかり山林を提供して、そしてこれまで木の伐採をしながら、ここを管理しておられる。

カシの木は市のシンボルでもあります。指定の樹木でございます。今後世に語り継ぐと言われましたが、そのためにその跡地にカシの木を植樹すると。また今折れた根元が2メートル以上立派な大木がありますが、その一部をやはり保存する方法もございましょう。厚保にありましたしだれ桜の枯れた跡が、そのままではいけないというので、今歴史民俗資料館の前に保存展示されております。そういうシンボリックなものの保存、また後世に語り継ぐための対応、これについてひとつよろしくお願いしたい。

答弁はよろしゅうございますが、そういう立派な文化財がたくさん残っていることについて、市民の誇りでもあり、市民にもう少し積極的に紹介し、子供たちにも誇りある先人の遺業、こういう文化財を愛する心を育て、郷土を愛する、ひとつ子供を育ててほしい。そういう思いで、一応一般質問を終わりたいと思います。

副議長（河村 淳君） 一般質問を続行いたします。

布施文子議員。

〔布施文子君 登壇〕

16番（布施文子君） お疲れさまです。純政会の布施文子でございます。一般質問の順序表に従いまして質問をいたします。

まず初めに、UJIターン者に対する支援について、お伺いいたします。

「UJIターンって何だ」と、お思いの市民の方もいらっしゃると思いますので、簡単に説明をさせていただきます。

Uターンとは、出身地から地域外へ進学や就職のために都会へ出た後、出身地に戻ることに。Jターンとは、出身地から近隣地域に戻ることに。Iターンとは、出身地にかかわらず、住みたい地域を選択して移り住むことを言います。

私は、この美祢市に「退職後はみんな帰ってきてほしい」、若い方々には「自然に恵まれたこの地で子育てをしてほしい」と願っています。

美祢市は、人口減少が続きます。若者が市外に流出し生産年齢が減る一方、高齢化が大幅に進みます。従って、活力も低下し、特に周辺部は田畑の荒廃、後継者不足が大変深刻になっております。

また、美祢市の教育に対する不安から、子供たちが小さい中学生のころから市外に転出するという現象も起こっておりまして、これにつきましても地元の教育を安心して受けられるような努力が必要であるというふうに思います。

しかし、世の中は少しずつ変わりつつあります。大変な経済不況、食の安全、豊かさに対する価値観の変化等、田舎暮らしを希望する人が増加の傾向にあります。そんな今がチャンスです。受け入れ体制の整備を整え、移り住みたくなるような情報をどんどん発信していただきたい。

美祢市の強みはたくさんあります。土地が広い、農林業の受け皿もある、交通のアクセスもよい等々です。将来を見据えて、思い切った支援策を出すことが肝要だと考えます。

そこで、5点ほど質問いたします。1点目は、美祢市へのUJIターン者の実態はどうでしょうか。

2点目は、支援策として生活支援、就労支援等がありますが、まず生活支援について、一番に上がるのが住宅です。美祢市は住宅が、家賃が高いという声もしばしば耳にいたします。しかし、美祢市は今空き家バンクの制度がありまして、その需要と供給はどうなっているだろうか、満たされているのだろうかと思います。住宅分譲地を希望される方々に、思い切った特典を検討されるお考えはありませんでしょうか。また、奨励金と経済的な支援策は考えていらっしゃいませんか。

次に、就労支援についてであります、「帰りたいけど仕事がない」との声をよく聞きます。美祢市では、今どのような提供ができますか。

3点目は、UJIターンを希望される方々に対する美祢市のホームページが情報不足であると思います。空き家バンクにつきましても大変わかりやすく親切に掲載をされておりますが、その他については、私は情報がとても足りないのではないかというふうに思えてなりません。安心して帰りたくなる。移住したくなる。PRの工夫が必要であると思います。写真を大きく、あるいは支援内容は具体的に質疑、応答形式も親しみがあってよいと考えますが、いかがでしょうか。

4点目は、先日農林事務所で、ニューファーマー総合支援対策事業について資料を入手いたしました。これは新規に農業の担い手を育てるための県の事業のようで、負担割合は事業主が50%、県が25%、市が25%と聞きます。市として、この

事業に取り組まれるお考えがあるでしょうか。お伺いをいたします。

また、3月末の新聞に、下関市は全国初の定住自立圏中心市宣言を発表。選考実施団体に指定され、本年度は国の交付金が1億6,000万割り増しされる。それは、医療、交通、教育などあらゆる分野で人口の定住につながる施策が期待されるとの記事を読みました。美祢市も、国や県の有利な制度をいち早く取り入れていただきたいと考えます。

5点目は、去る5月6日、山口新聞に、阿武町が定住アドバイザー制度を開始した。これはUJターンの方々を受け入れる際の生活情報提供や実際に生活する地域との仲立ち、相談事などに応じて定住者の田舎暮らしを応援するものというもので、5人のアドバイザーを委嘱したという記事がありました。

美祢市は、まだまだよそ者という考えの根深いところですが、定住を促進するためには、民間の方々の協力があって、よりスムーズに進むものだと考えますが、市長の御所見をお伺いいたします。

次に2点目の、歴史民俗資料館収蔵品の利活用についてお伺いをいたします。

この歴史民俗資料館は昭和53年、岡藤五郎先生の収集された貴重な化石資料が御遺族から寄贈され、それを受けて美祢市歴史民俗資料館が設立され、現在に至っておると聞いております。

岡藤先生の偉業につきましては、多くの書籍に紹介されていますが、平成16年に財団法人地域活性化センターが編集した「伝えたいふるさとのいい話100話」の中に、「バイクを駆って古代を追いつけた化石先生」とあり、先生が発見された化石は日本列島の歴史や気候を知る上での重要な手がかりになったとあります。

またの本には、「一教師の収集から国際的化石資料館が誕生し、美祢の小都市を異色あるものにしていく」とあります。このことは市民である私たちがしっかりと認識し、誇りを持って守り育てていかなければならぬことでもあります。

こうして見てみますと、美祢市の基本理念のサブタイトルにあります「太古のロマンに抱かれ、夢をはぐくむまちづくり」が生きてきます。資料館の重要な役目も見えてきます。

私は、4月末、歴史民俗資料館と化石館の倉庫におさめられた収蔵品を見せていただく機会がありました。開館当初から化石採掘や標本整備にかかわられた方が案内をしてくださいました。日ごろは、あけたことのない見たこともない扉も、あけ

て見せていただきました。そこはまことに宝の山だと感動いたしました。採取した化石が箱に詰められ、天井まで積み上げられておりました。その量の多さと狭さ、雑然さ、何とか方策を考えていかなければ、このままでは時とともに埋もれてしまうのではないかと危惧いたしました。

去る3月、河本議員の一般質問に「化石館と民俗資料館及び秋吉台化学博物館の収蔵品の活用についてどう考えているか」との質問に対し、「この貴重な資料は常時公開はせず、大切に保存・管理することが義務づけられています」と回答がありました。

そこで質問ですが、こんな状態で化石の保存・管理は大切にされていると言えるのでしょうか。整理はだれがどのようにされているのでしょうか。また、今までにどう活用され、今後どのように有効活用していかれるのでしょうか、お伺いいたします。

財政上、一朝一夕にできることではありませんが、化石資料に関することは化石館、民俗資料に関することは郷土館として整備すべきだと考えますが、いかがでしょうか。

次に、この資料館は、市民に親しまれ、市民とともにつくる展示館でなければなりません。現状は、役所である文化財保護課と歴史民俗資料館の窓口が同居しておりまして、大変行きづらいという声を聞いております。文化財保護課と歴史民俗資料館の役割分担について業務の明確化が必要と考えますが、いかがお考えでしょうか。だれもが気軽に入れ、図書の閲覧や子供たちの調べ学習ができるような無料のフリースペースはとれないでしょうか。

今、子供たち向けの本も、それから一般の方や専門家の方が見たい本は、すべて課長室の本棚にあります。また、学芸員が多忙過ぎて、本来の仕事が困難な人事配置ではないかと危惧いたしますが、市長の御所見をお伺いいたします。

最後に、ボランティアによる館内の案内人についてですが、例えば玄関前につくられています岡藤先生の胸像の前で来館者に対して案内人が、「先生の集められた化石学の資料館にはたくさん展示してあります。その数は30年間に何と10万点にも上るそうです。昭和53年7月20日、先生は、焼けつくような採掘場で心臓のために亡くなりました。しっかりと握りしめられたこぶしの中には、小さな化石がたくさんあったそうです。」と説明したら、来館者の資料館を見る目が違って

くるのではないのでしょうか。案内人を養成することで、資料館を守り育てる人材の育成にもなります。

この件につきましては前回、化石採集場の案内人についても提案をいたしました。前教育長さんの回答は、「自然史友の会の方々とも相談をいたします」とのことでした。その後、どのように進められているのでしょうか。お伺いをいたしまして、壇上での質問を終わります。

〔布施文子君 発言席に着く〕

副議長（河村 淳君） 村田市長。

〔市長 村田弘司君 登壇〕

市長（村田弘司君） 布施議員の御質問にお答えをいたしたいと思えます。

まず、UJIターン者に対する支援についてです。先ほど詳しいUJI、説明をいただきまして、よくわかりました。そのことに対してですが、人口減少対策として、本市におきましてもUJIターンを初めといたしまして、定住促進事業に積極的に取り組んでいるところでございます。

1点目の、本市のUJIターンの現状、それからその支援策についての御質問ですが、私が市長就任の後、直ちに人口定住の促進を目指しまして、転勤や就学、それから都市部からのUJIターン者の家屋 家の需要に対応するために、私の公約の一つであります「美祢市空き家等情報バンク制度」を直ちに制定いたしまして、そしてUJIターン希望者へ空き家情報を提供するサービスを、先ほど御質問の中でもおっしゃっていただきましたけれども既に開始をいたしております。

この本制度によりまして、この平成20年度、ですから開始年度ですね、新市になりましたから、平成20年度には40世帯、111名の空き家利用希望者がありまして、24戸の空き家登録がありました。ですから、こういうことをやるためには美祢市内の空き家情報をこちらが集めまして、その情報をお一人の方に発しなくちゃいけませんから、基本登録させていただいて、それを発信するという形ですね。ですから、24戸の空き家登録がある。結果としまして13世帯、32名の利用希望者の方が市内に既に定住されておられます。これが実績ということになる。

現在は、利用希望者に対しまして、空き家登録戸数が不足しているという状況です。ですから、御希望される方が多いけれども、逆に美祢市内の空き家が不足しておるといって、今後も引き続き空き家を所有されておられる方々に対しまして、

本制度への御理解、それから御協力をお願いするとともに、空き家登録者に対しまして簡易な改修等の優遇措置も検討してまいりたいというふうに現在考えております。こういう御質問をいただきましたので、いい機会でございますので、どうぞ空き家登録制度を、お持ちになっておられる方、どうぞ登録に御協力をお願いいたしたいと思っております。

また、UJIターン者の就労支援についてでありますけれども、機会あるごとに市内企業に対しまして、市民の方を採用をお願いをしております。特にUJIターン者の就業につきましては、引き続き市内企業に特段の御配慮をお願いをいたしたいというふうに考えております。

また、今年度から人材や企業の育成によって地域活性化を図ります「人材・企業育成事業」に取り組むことにしておりますが、UJIターンの方にはこの事業を活用してキャリアアップを図っていただき、優秀な人材を必要といたします市内企業に就職していただくことも考えられます。

それから次に2点目の、UJIターン者促進のための情報提供についてであります。本市のホームページ上に定住情報として、空き家情報を初め空き農地、それから就農、UJIターンに関する窓口を掲載をいたしております。

空き家情報に関しましては、それぞれの住居の間取りや写真、それから建築年月日、それから家賃等の詳細な情報を掲載しております。全国どこからでも懇切丁寧でわかりやすい情報が入手できるようになっておりまして、多くの方々から御利用いただいております。

今申し上げた空き農地、荒れ防止も含めておりまして、都市部に住んでおられる方が家庭菜園的なものを欲しておられる方が多いということで、我々、中山間地にある美祢市特有の空き農地もありますし、荒れるよりは美祢市に定住していただいて畑とか利用していただきたいということで、併せて登録をさせていただきます。それを併せて発信をさせていただきます。制度では、ちょっと空き農地という言葉を上上げておきます。

それと、続きまして3点目の、人口定住に結びつく国、県の優遇制度の導入についてであります。

まず、先ほど言われたニューファーマー総合支援対策事業についてであります。本市では平成21年度、ですから今年度ですね。当初予算に就農円滑化対策事業へ

の取り組みといたしまして、100万円を予算化をいたしております。この事業は人口定住につながります新規就農者に対しまして、機械整備の補助を行う事業でございます。県、市それぞれが4分の1ずつ負担をいたしまして、残りの4分の2につきましては、就農される方が御負担になるということで、新しく就農時の初期の経営に対して支援を申し上げたいというものでございます。

次に、定住自立圏構想に関します制度の概要であります。先ほど下関市のことをおっしゃいましたけれども、このことについてです。複数の自治体で定住の受け皿を形成をするということを目的に、地域の中心市及び周辺市町村が協定を締結することで圏域を形成し、総合連携を進めるものとしておるものでございます。これは総務省によりまして、今年の4月に施行され、下関市がいち早く定住自立圏中心市宣言を公表したと、これ新聞に載っておりましたね。

これはですね、政治的な問題があるんですよ、なるためには。今それを申し上げますけど、本制度におきます中心市というのは、人口5万人以上で、昼と夜の人口比率が1.0以上、一方、周辺の市内、町内、村は、中心市と隣接をして密接な関係を有する市町村とされているということでございます。ですから、下関市は、単独で総務省が出したこの要件に当てはまっているということで、下関市は手を挙げられたということですが、今美祢市は、単独では要件に該当しないということです。

午前中の一般質問でもお話をさせていただきましたけれども、これから我々の市が、どこと、どの市と関係を深めていって、この市を実になる希望あるものにするかということは、私に課せられた使命だというふうに思っていますので、これ安易にどことすぐひっついて、この中に入らしてくれということは避けたいと思っています。ですから、大きなビジョンの中で、このことは考えていきたいというふうに考えております。

これに対します国の支援といたしましては、特別交付税や地域活性化事業債、要するに借金のことですが、それから財政措置、それから補助事業の優先配分がされるということになっております。ですから、このことに関しましては、ひとついろいろ検討させていただきます。

それから4点目の、定住アドバイザー導入についてでありますけれども、本制度は地域活性化を図るために、UJIターン希望者を積極的に受け入れる際に、生活情報の提供、それから相談、地域の紹介等を行うことを目的に制定されたものであ

ります。県内では阿武町において5名の先ほどおっしゃいましたね、民間アドバイザーがいらっちゃって、県ではライフプランアドバイザーとして東京事務所、それから大阪事務所の担当者が本業務に取り組まれているところでございます。

本市におきましては、総合政策部企画政策課が担当窓口となっております、UJターン者のもとより、定住に関するお問い合わせのお客様すべての方々に対しまして、親身になって生活情報等の相談に対応しておるということです。ですから、先ほどの空き家バンクもこれほどの効果があったということです。

いずれにいたしましても、人口減少、それから地域の少子高齢化、さらには過疎化の荒波を乗り越えるために、定住促進は欠かせない事業の大きな一つだろうというふうに思っております。従いまして、今後も時代の情勢をにらみながら、常に新たな視点からアプローチをする弾力的な定住促進事業を遂行してまいりたいというふうに考えております。布施議員を初め、議員の方々、それから市民の方々、いろんなアイデアがあればどんどん私のほうへお寄せいただきたいと思います。ほんとにこれは、人口が減ってきますと、470平方キロという美祿市が、空になっては何もありませんから、人口定住促進は本当に大事なことです。ひとつ御協力をお願い申し上げたいと思います。

それから第2の、歴史民俗資料館収蔵品の利活用につきましては、教育長より答弁をいたさせます。

副議長（河村 淳君） 永富教育長。

〔教育長 永富康文君 登壇〕

教育長（永富康文君） 布施議員の歴史民俗資料館収蔵品の利用についての御質問にお答え申し上げます。

1点目の、資料館の倉庫におさめられております収蔵標本の活用と今後のあり方についてであります。

現在、美祿市歴史民俗資料館や美祿市化石館には、大量の化石が収蔵されております。これらの化石は、故岡藤五郎先生が多年にわたり収集されたもの、資料館が昭和55年1月に開館した以後、その後調査・収集したもの、大学関係者や研究者からの寄贈、博物館等との資料交換などによるものであります。

これら収蔵化石の主要なものにつきましては、常設展示を行っておりますが、余りにも大量の化石があること、また、現在の展示スペースでは今以上の化石を展示

することが大変難しい状況にあることなどによりまして、大量の化石が収蔵庫や倉庫におさめられたままにはなっております。

なお、倉庫に収蔵している化石につきましては、整理途中や未整理のもの、現在展示している化石と同じ種類のものが数多くございます。

議員御質問の資料館や化石館におきます化石の保存、管理、整理についてであります。化石の量に対して倉庫が手狭であること、専門性を持った職員が不足していることなどから、なかなか進んでいない状況であります。しかしながら、現在職員の学芸養成も行っておりますので、今後は少しずつでも保存・管理の改善や標本の整理を進めてまいります。

また、収蔵化石の活用状況と今後の有効活用についてであります。これまで一部の化石においては、資料館の特別展や他の博物館への貸し出しなどで利用しております。しかし、他の収蔵化石の活用も大切なことでもあります。今後、さらに整理・分類を進めるとともに、展示替えや数の多い化石につきましては、展示を希望する市内の小・中学校、社会教育施設などで展示すること等によりまして、より有効な活用方法を検討してまいりたいと思います。

また、化石資料と民俗資料等を分けた展示館の整備につきましては、現在保有しております大量の化石を資料館または化石館の1施設に集約することは、現状ではスペースの問題、財政上の問題などで難しい状況にありますが、今後の課題として考えております。

次に2点目の、市民に開放された展示館のあり方についてであります。

現在の資料館では、行きづらいという声があるので、文化財保護課と資料館の役割分担や業務の明確化が必要であるとの御質問であります。職員が両方の業務を兼務しており、特定の職員に資料館業務のみを任せることは難しい状況であります。

しかし、今後、他市の状況や来館者などの御意見をお聞きしまして、市民に親しまれるのはどのような方法があるか調査・研究をしてみたいと考えております。

また、資料館では、毎年開催しております特別展のほとんどにおいて、数日間無料開放を実施し、さらに市内の小・中学生を対象として、毎週土曜日を無料開放しております。これらの無料開放のほかに、だれもが気軽に訪れ、図書の閲覧や子供たちの調べ学習ができる無料のフリースペースが取れないかとの御質問であります。

が、県内では豊田ホテルの里ミュージアムが広いエントランスホールで実施されております。現在の資料館では、建物の構造や管理の問題などから、無料のフリースペースをつくることは容易ではありませんが、より多くの市民の方に気楽に御利用いただき、親しんでいただくために、今後、他市での状況等も調査し、どのような方法が可能であるのか検討してまいりたいと考えております。

また、新市発足に伴い、歴史民俗資料館の中に文化財保護課を設置し、文化財保護行政の一層の推進を図っているところであります。現在、文化財保護課には4名の職員が配置されておりますが、今後とも業務の工夫改善を図りながら、現人員で対応してまいりたいと考えております。

続いて、3点目のボランティアによる「楽しい案内人」の養成についてであります。

現在、資料館・化石館・化石採集場の利用者に対しまして、案内や指導の要請のあった団体については、職員が対応しておりますが、ボランティアガイドを養成し、お手伝いいただくことは、より多くの方々に喜んでいただける方法の一つだと思われれます。

今後、ボランティアガイドの導入に向けて、募集方法やガイドの内容、養成に必要な機関や運用方法などを検討していきたいと考えております。

なお、化石採集場の案内人についての御提案につきましては、美祿自然史友の会を初めとして、さまざまな方面の方々と御相談をしながら進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

副議長（河村 淳君） 布施議員。

16番（布施文子君） ありがとうございます。市長さんに、まずお伺いをいたします。

20年度、13世帯32名の方が転入しておいでになったということで、空き家バンク制度、非常に一生懸命なさっているんだということに対しまして、まず敬意を表しまして、次にお伺いですが、今から10年先、まだ市長さんは、きっとこの席にいらして（笑声）御活躍、御検討していらっしゃる、これはよいしょではありませんので、そのように思っておりますが。

人口問題研究所の推定によりますと10年後は、美祿市の人口は2万4、

139人というふうに推定を出しているんです。そのうちの年少人口の割合は、わずか9%、それから生産年齢人口が49.5%、高齢人口が41.5%、半々なんです。これは、平成17年度の国勢調査でございますので、来年度がまた国勢調査の年であると思いますが、もっと厳しい状態になっているのではないかと思います。

そこで、10年後の目標人口、美祢市の人口を市長さんは何人と設定をしておっしゃるかお伺いをしたいと思います。

副議長（河村 淳君） 村田市長。

市長（村田弘司君） 布施議員、10年後に私がまたここにおるだろうと今おっしゃいましたけど、それはどうかわかりませんが、ただ、最低10年先を目指して私は今仕事をさせていただいています。でないと、目先のことで動いてしまいますと、この美祢市の行く末は誤りますから、10年先、もっと先を今にらんで私は動いております。

人口問題研究所、推計数値をたしか出しています。これも上位推計、中位推計、それから、下位推計ということで、いろんな要素を使いますから、この統計数値というのは、その使った指数によって非常に大きくなったり小さくなったりするんです。

2万4,000という数字は中位推計だろうと思います。ですから、一番これが近いかなという感じはするんですが、確かに17年度国勢調査がありました、それ以前の人口の状態を勘案して17国調をベースとしてつくった人口問題研究所の数値だろうと思います。

手をこまねいておったら2万4,000どころか2万3,000というところもあり得るかなということがあるかもしれません。でも、これは統計数値ですから、何とも言いがたいですが、先ほどから定住促進ということで御質問をいただいて、市長になった後すぐ空き家バンク制度、手をつけたというのは、そうならないためにどうすればいいかということで、一番わかりやすい方法は、まず手をつけるしかなかろうということで手をつけさせていただきました。

それと、いつも私が申し上げておる交流拠点都市、観光立市というのは、まず、今お住まいになっている市民の方が自分たちの市に誇りと夢を持っていただかない限りは、外から見たときに非常につまらない市に見えますから、こちらへ来て住もうとか、帰って住もうとかいう気持ちになりません。

ですから、まず我々がここに住むことに誇りを持っていただくような市をつくるように心がけて今おるつもりで、一生懸命、議員の皆さん方、それから、市民の皆さん方に今、それを全国にも発信をしている段階です。

この努力を市民の皆さん方が一生懸命ともしていただけたら、私は今の人口は維持できるんじゃないかと思っています。ただ、今の人口のこの目標数値につきましては、本年度中に新市の総合計画を策定をいたしますので、今その中で委員の方々が御協議を賜っております。

ですから、その目標人口を決めて、それに向かって動くということで今その協議を賜っておりますから、私が何ぼと言ってしまうと、一所懸命協議をされておられるのが無になりますから、ちょっと私は今ここでは控えさせていただきたいと思います。私の思いだけを今述べさせていただきました。

以上でございます。

副議長（河村 淳君） 布施議員。

16番（布施文子君） 思いをしっかり受けとめまして、今の人口が維持できるために人口促進に向けて一生懸命お互いに頑張っていきたいというふうに思います。

そこで、空き家情報についてですが、まだ需要のほうが多くて供給が足りないということなんですが、市民の方々への周知徹底の仕方、あるいは協力をお願いする仕方が何ごとにおいても美祿市は不足しているというか、努力が足りないんじゃないかというふうに思います。その件に関しましてちょっと欲張りを申します。

静岡県の掛川市に視察に参りましたら、市長さんが住民集会を開いていらっしゃいます。そして、市長のほうから話題提供をどんどんしていらして、そして、いただいた住民集会集というのを、こんな厚いものを、1年間です。いただいたんです。

私は、合併1年、とても市長さんはお忙しいということは承知の上で申しますが、市民に物事を徹底するためには、やはり今のように映像を通して情報を流していただく、そういうようなことがとても大事、あるいは個々の集落に出向いていただきまして、あるいはもっと大きな、ほかのものでもいい、静岡県では市民総代会というようなものをつくっておられるということもありました。

そういうようなものでもいい、今、空き家情報が必要なんだということを流していただかないと市民に十分物がわからない、協力のしようがないというふうに思います。

空き家は幾らでも私どもの近くにあるんです。でも、それが出てこない、空き家として提供しないというその理由はどのように受けとめていらっしゃるのでしょうか。何かありますか。

副議長（河村 淳君） 村田市長。

市長（村田弘司君） 今の掛川市の話は非常に参考になります。

16番（布施文子君） まず市長さんの集会についてもちょっと、市民が待っていますので。

市長（村田弘司君） 私も本当は出向きたくてしょうがないんです。私、本当に皆さんの前でいろんなお話をさせていただいて、聞かせていただくのが大好きでして、それはまた私が市長としていろんなことを考えるのにエネルギーにもなりますし、知恵にもなりますから、実は本当はやりたくてしょうがないのですが。

今、各地区に法定合併協議会で決めました地域審議会を持っておりますから、そちらをやはり優先すべきだろうということで、今じっとがまんをしておるところです。直接私が聞きますとダイレクトに私に話が入ってきますから、その地域審議会の存在そのものを無視しかねないということもありますので、ちょっとその辺も考えて私も行動をしていこうと思います。

なるべく、ですからいろんな集会には顔を出してあいさつだけでもさせてもらおうとは思っているんですが、いかにせん身体は一つで、御要望があったところは全部は行けてない状況があります。その辺は申しわけないと思っておりますけれども。

それと、今の空き家の件ですが、私も実は、こんなに空き家があるのにどうして出てこないんだろうと思いますしてちょっと聞いてみましたら、一つには、やはり仏壇が残っておるということで、なかなか都市部の空き家みたいに出ていかれたら本当に何も無い状態であれば逆にお貸ししやすいんだけど、代々家を一生懸命保ってこられた家が皆さんおられなくなって仏壇が残っておると、そして田があるという状況です。逆にそれがネックになっておるということも一つは聞きました。

まだほかにもいろいろ要素といいますか、原因があるんだろうと思いますけれども、その辺を、今供給すべき空き家が不足している状況ですから、クリアしていく必要があるなというふうには思っております。

ただ、昨年、私が市長になってすぐ始めたことですから、様子を見ながら改善していこうと思っています。これからもっと改善をしますし、この発信の仕方について

てもまだ足りないところがあると思います。随分初めにハッパをかけましたけど、最近ほかのことに頭が行ってしまっていて、ハッパをかける今、そっちへ行っていませんですから、またハッパをかけます。そういうことで御理解ちょうだいしたいと思います。

副議長（河村 淳君） 布施議員。

16番（布施文子君） よろしくお願ひいたします。

次に質問ですが、支援策の目玉が欲しいんです。これもまた例を出しますが、大分県の大野市では、町民になることを条件に100坪の宅地を20年間、月額1万5,000円で貸し出す。そして、期間が終了したら本人のものになるというようなことですが、私は、これも良策だなというふうに思ったんです。

来福台の一角、来福台を何とかしなきゃならないという思いがあるんですが、市長さんも同じだと思います。何とかそういうようなものに考えることはできませんでしょうか。

副議長（河村 淳君） 村田市長。

市長（村田弘司君） 布施議員なかなかおもしろい発想でして、やれたらいいなと本当に思います。でも、今、具体的に来福台のことをおっしゃいましたけれども、例えば来福台でそれをやってしまうと、既に御自分のお金を使われて入られた方とのバランスとか、いろんな面があります。

それと、あれを開発するのに莫大が金がかかって、今その借金を返していってますよね、土地開発公社が。それに掛かることがありますから、やれたら本当に素敵だなと、いいなというふうに私も思いますけれども、なかなか事は簡単でないという部分があります。

それと、例えば今の農地とか民間が持つておられる用地を今おっしゃられた方でやるということについても、市が税金を使って市としてその土地を取得して、それを例えば非常に安く提供して差し上げるとか、ここに入ってこられたい方に。ということをやるとすれば、税金を投与しますので、我々が払った税金を、そのために、そんなことで使ってもいいかという御議論は必ず出てきますから、その辺のこともきちっとクリアしないとできないと言うことがあります。

ただし、そのアイデアは非常に面白い。詳しい話は、またこれが終わってお聞かせください。

副議長（河村 淳君） 布施議員。

16番（布施文子君） それでは、それを楽しみにしております。

経済的な支援について先ほど御回答がありました。新規の就農者に対しての機械整備の100万円と、もう一つは、何か空き家登録に対する会員や改修等の補助金を検討中であるということですが、そのほかに経済的な支援というものが美祢市には全くないんです。

阿武町の例を一例だけ申しますと、阿武町では奨励金の交付制度を実施しています。例えばUターンの45歳以下で定住意思のある方には20万円、第一次産業に就労すると30万円で、その他就業支度金だとか出産祝金だとか、あるいは結婚祝金等、それぞれ金額が記載されておりまして、定住要件から逸脱したときにはそれは返還してもらおうと書いてあります。

そして、その最後の文章が気に入ったんです。「どうぞ御利用ください」て書いてあるんです。

美祢市の場合のホームページを見ますと、何々について内容はお問い合わせください、どこどこにお問い合わせください、あるいは何々をごらんください、そういうふうに書いてあるんです。

だから、今はとにかく全国一瞬にしているんな情報が入手できる時代になっていますので、とにかく移り住みたくなるぴかっと光るものを支援を出していただきたいと思いますし、取り組むスタイルが何となく文章の端々に読み取れるような、温かい気持ちになって行ってみようという気になるような情報発信をしていただきたいというふうに思います。

最後に、私はお金の問題を余り今は言いたくありません。懐の内はみんなわかっているんですから。ですが、お金をかけて今物に投資をすることも大事ですが、人に投資をすること、それが人材育成には大変大切だと思うんです。美祢市の将来像を決めていくことですので、人に対する投資を今後しっかりしていただきたい。10人お願いをして、1人しかとまらなくても、それはその1人が10人を生んでくれるんじゃないかというふうに思います。

いよいよこれで押さえの発言ですが、私は、去る5月の19日の日にIターンをされた方を交えて座談会を開きました。参加者の半数はU・J・IターンのOBの方々でした。これを通しまして強く感じたことは、単に人口がふえるだけではなく、

その方たちが知恵やアイデアを持って入ってこられる。そして、その方が他に波及をしていってくださる波及効果も大きいというふうに思いました。

個人的なことを申し上げてはいけないのかもしれませんが、11月にはまた赤ちゃんが誕生されるということで、集まりました者たちは何とか頑張って美祢市に定住していただくこと、「野菜ができたなら持っていくよ」、あるいは「引越しのときにはお掃除に行っちゃげるよ」というようにして、私どもも一生懸命応援する姿勢をお話をしたんですが、地域の人々がそういうふうに親身になって迎えてあげることが定住アドバイザーの役目ではないかというふうに思いまして提案をさせていただきます。

確かに「担当課の方々が土曜、日曜を返上してお世話をしてくださって本当にうれしかった」というふうにその方も述べていらっしゃいました。そのことは私も一生懸命していらっしゃるということを思っておりますが、市長さんの提唱していらっしゃいます市民と行政の協働のまちづくりというものはそういうものじゃないかというふうに思います。

最後に、2点ほど済みません、提案をします。

一つは、お盆にU・J・Iターンの方々の面接会を開いたらどうでしょうか。

2点目は、「おいでませ美祢市へ」ということですので、相談の窓口はできるだけ一本化していただきまして、そこへ行ったらすべてのことがわかると、情報が親切に提供していただけるように努力をしていただきたいという提案をいたします。

私の持ち時間はもうあと何分ですか。

副議長（河村 淳君） まだ20分あります。

16番（布施文子君） ありがとうございます。

それでは、歴史民俗資料館のほうの質問をさせていただきます。

まず、御回答に対しまして私は余り満足をしておりません。市民はほとんど行かない資料館、大体どこでも歴史民俗資料館というのはそんなものだろうというふうには思いますが、美祢市は違います。そうであってはならない。観光立市を目指すからには、やはり観光コースの一つとして大きな役割を果たします。

そのためには、やはり今の収蔵品の整理だとか利活用については、きちんと整理がされていかなければならないというふうに思いますし、学芸員も養成しておられるとの回答でしたが、大仕事だと私は思います。ですから、開館当時から携われた

方々も、造詣の深い方々いらっしゃいますし、また、市民の力をどうぞかりてください。

3点ほど質問をいたします。

1点目ですが、1点目は、教育委員会が平成20年7月から22年3月末日まで委嘱をされました美祢市歴史民俗資料館専門調査員の活動状況についてお伺いをいたします。

副議長（河村 淳君） 今、私のほうが「20分」て言いましたけど、河本さんが早く済まされましたので、もう10分です。よろしく。

16番（布施文子君） わかりました。

副議長（河村 淳君） 教育長。

教育長（永富康文君） 布施議員の御質問にお答え申し上げます。

御指摘のとおり、歴史民俗資料館では、専門調査員の3名を2年任期でお願いをしております。どういうふうなことをしているかというふうな御質問でございますけども、一つには、これは平成19年度まででございますが、年度末に資料館の協議会委員と、それから、資料館の顧問と、それから、資料館の専門調査員の方々の合同の会議を開催しておりまして、その中で資料館の運営などにつきまして貴重な御意見等も承っているところでございます。

もう一つには、現在の化石採集場でございますが、これを建設するにあたり、さまざまな御意見等をいただきながらこの事業を推進したところでございます。

また、三つ目には、例えば道路工事等で化石等が出まして、緊急に調査をすることが必要になった場合等にお越しいただきまして、その調査等も行っているところでございます。このような活動につきまして御協力をお願いしているところでございます。

以上でございます。

副議長（河村 淳君） 布施議員。

16番（布施文子君） それでは、20年に委嘱をしてからはまだ一度も会合を持っていらっしゃらないということでございますね。やはり委嘱をしたからには会合を持って、その方たちをしっかりと使っていただくという言い方は大変御無礼かもしれませんが、そういう方たちを交えての歴史民俗資料館の運営をしていっていただきたいというふうに思います。

2点目でございますが、夏休みに子供や保護者同行の方々を対象に化石とか岩石、貝の学習相談会が開催されていたようですが、昨年はなかったそうですが、ことしはどうでしょうか。お答えください。

副議長（河村 淳君） 永富教育長。

教育長（永富康文君） 今年度でございますけども、8月に化石教室を開催する予定にしております。化石教室を8月に予定しておりますが、そのほか化石館で月2回程度の化石体験コーナーも開催しているところでございます。

副議長（河村 淳君） 布施議員。

16番（布施文子君） 夏休みに子供たちがそういう学習会を保護者も含めて、あるいは市民も含めてそういうものに興味がある方は待っていらっしゃると思いますので、そういう取り組みをしていただきたいと思います。

最後に、この資料館収集品のすべてを年に1回夏休みに「化石先生記念日」、これは私の勝手な名前ですが、すべてを、あのあかすの扉もすべて、倉庫の中も市民に公開をしてはいかがでしょうか。見せようと思えば掃除も整理もしなければなりません。どうでしょうか。そのときに市民によるボランティアの案内をまず腕試しに使ってみたらどうでしょうか。

まだそういうことをすると決めていないのに提案をするのはおかしな話ですが、難しく考えていらっしゃるように思うんです。そんなに難しく考える必要はないんです。ですから、アクションを起こしてみたいというふうに思います。

また、児童が児童・生徒による案内、短い話を人の前で話すということは、学力向上だとか、あるいは郷土を思う愛郷心につながると思います。そういうことについて、子供たちも案内人を育てるということについて教育長さん、どのようにお考えをお伺いして、最後の質問とさせていただきます。

副議長（河村 淳君） 永富教育長。

教育長（永富康文君） 御質問にお答えいたします。

歴史民俗資料館におきましては、特別の公開日を設けて、そのときあたりに未公開の化石等を倉庫にあるものを全部見せたらどうかという御提案と申しますが、今考えられますのは、本年度歴史民俗資料館が開館30周年を迎えますので、いろいろと企画を考えているところでございますけども、その機会などに収蔵庫、倉庫等を公開することもできるかなと今のところ考えております。

ただ、その進め方につきましては、収蔵品の整理状況とか、あるいは安全面とか、あるいはどなたにそういうふうなお手伝いをいただくとか、公開方法等も含めて今後検討をしてみたいと思っております。

いずれにしましても、議員さんがおっしゃいますように、この化石館は美祢市の宝でございますので、この収蔵品をぜひ皆さん方に、市民の方々に広く知っていただきたいと、そして、その保存と活用に力を尽くしてもらいたいという温かい御提案でもって受けとめておりますので、今後とも取り組んでまいりたいと思っております。

副議長（河村 淳君） 布施議員。

16番（布施文子君） 終りの言葉を申します。

ありがとうございました。私のきょうの一般質問のキーワードは、「市民と行政の協働のまちづくり」、それから、「人材育成」ということでした。いろいろと御回答をいただきましてありがとうございました。これをもちまして私の質問すべてを終わります。

副議長（河村 淳君） この際、暫時15時25分まで休憩いたします。

午後3時08分休憩

午後3時25分再開

副議長（河村 淳君） 休憩前に続き会議を開きます。

一般質問を続行いたします。荒山光広議員。

〔荒山光広君 登壇〕

12番（荒山光広君） 皆さん、こんにちは。新政会の荒山でございます。平成21年第2回美祢市議会定例会にあたり一般質問順序表に従って質問を行います。

美祢市は、昨年3月21日に合併して早1年が経過いたしました。さきの3月議会では新市発足2年目となる平成21年度の施政方針の中で村田市長は「本年度、新生美祢市が将来へ向かって着実な発展を続けていくための礎を確かなものにする重要な年である」と位置づけ、中でも「現在、作業が進んでいる今後10年間の本市の未来像を描く第一次美祢市総合計画の策定は、市民の声を最大限に反映したものにしたい」。

また、「新市の一体感の醸成という観点から、市政運営の原動力は市民力であるという認識のもと、市民の声を市政に反映していく仕組みを確立して、夢と希望、そして誇りの持てる新たな美祢市の創造に向けて邁進する」という力強い所信を述べられました。

それに基づいて平成21年度当初予算は、主要な施策として交流拠点都市を目指して、子育て支援の充実、情報・通信分野の整備、産業の活性化、安心できる医療の確保、公共交通の整備、学校教育、人材育成の充実という七つの柱を立てて編成され、村田市長の新しい美祢市づくりに対する熱い思いが伝わる施政方針であり、予算の中身でありました。

しかし、市長が言われる市民の皆様と協働した美祢市づくりは、これら予算の内容が市民のそれぞれの立場や環境にどのようにかかわっているのか具体的に理解されてこそ前進するものだと思います。

近年、当初予算の内容をわかりやすく具体的に示した予算ガイドブックを作成して市民に配付する自治体がふえていると聞きますが、美祢市においてこの予算の市民への周知についてお伺いいたします。

次に、ことし3月31日をもって御勇退された前福田教育長には、平成13年4月に御就任以来、合併を挟んで8年間、美祢市の教育行政各般にわたって御尽力いただき、市民の一人として深甚なる経緯と感謝の意を表したいと思います。

また、新たに就任されました永富教育長には、美祢市教育の充実発展のために手腕を発揮していただきますようお願いいたします。

教育長が所管する教育委員会事務局の業務は、小学校・中学校の管理運営の指導・助言・監督を行う学校教育はもとより、青少年助成教育及び公民館の事業などの社会教育や文化財保護に関わるものなど多岐にわたっており、その対象は全市民と言っても過言ではありません。

市長が目指す「市民の皆様と協働した夢と希望、誇りの持てる新美祢市の創造」は、まさに市民力が原動力とならなければ実現できませんし、その市民力の醸成は学校教育、社会教育の現場で培われるものだと思います。

新しく教育長になられて美祢市の学校教育・社会教育を遂行されるにあたっての基本的なお考えをお伺いして、壇上よりの質問を終わります。

〔荒山光広君 発言席に着く〕

副議長（河村 淳君） 村田市長。

〔市長 村田弘司君 登壇〕

市長（村田弘司君） 荒山議員の御質問にお答えをいたします。

1点目の「予算の使途をわかりやすく市民の方にお示しするための方策について」であります。

予算書の様式は、総務省で定められており、市民の皆様には、言われるとおり多少わかりにくものとなっているかと思えます。

このことから、美祢市においては、広報「みね」の4月1日号において、私の予算編成の基本となります市政施策方針を掲載いたささせていただきました。4月15日号においては一般会計、特別会計及び企業会計すべての事業の当初予算の概要、重点事業についてお知らせをいたしたところであります。

その際、歳入や歳出の用語の説明を付記するなど、市民の皆様が理解していただきやすいように情報提供に努めているところであります。

また、市のホームページにおきましては、これらの内容に加えまして、市の財政規模の推移や歳入、歳出の具体的な構成、それから、基金及び市債、市の借金です。市債等の状況について掲載をしており、これらに加えまして一般会計の目的別の重要事業の一覧を財源内訳や事業内容、担当課を加えまして、より具体的に掲載をさせていただいたところでございます。

また、年度当初には、美祢市有線テレビにおきまして、政策や大きな取り組みにつきまして私も説明をさせていただいたところであります。さらには財政担当者によります予算編成の基本方針、予算の概要、それから、一般会計の主要事業等の説明をグラフや図形を活用しながら積極的に行っておるところでございます。

それと、MYTの出演での私のいろんなお話をしゃべらせていたことですが、先日も行わさせていただきました。これからですね。ある一定の期間で私がMYTに出まして、フリートーク形式でいろんなこととお話をさせていただきたいと思っております。市長が何を考えているのか、市が予算に基づいてどういうふうなところに行こうとしているのかということをごすね逐次市民の方にわかりやすい言葉で話をさせていただこうと思っております。今のところまだ美祢地域だけに限っていますところをMYTが来年、山口ケーブルビジョンとつながりまして、市全域にこの放送が流れるようになりますから、恐らくそういう話を聞かれたらああ市長はこういうこと

を考えてこの予算を組んで、今、どこに行こうとしているのかなということがすべてとはなかなかいかないかもしれませんが、ある程度は御理解いただいてまたいろんな御意見等を賜る機会があるかと、いうふうに思っております。鋭意努力をいたしたいと思います。

今後も市民の皆様には市の予算や事業に対する御理解を深めていただきまして、市民参加により協働のまちづくりを推進していくためより一層わかりやすい情報提供に努めてまいりたいというふうに強く思っておりますのでございます。

なお、2点目の「美祢市の教育方針について」の御質問につきましては、教育長より答弁をいたさせます。

副議長（河村 淳君） 永富教育長。

〔教育長 永富康文君 登壇〕

教育長（永富康文君） 荒山議員の「美祢市の教育の方針について」の御質問にお答えいたします。

まず、学校教育であります。美祢市の子供たち一人一人が「ふるさと美祢」に誇りを持ち、夢や希望をはぐくみ、それを実現することができる教育を推進してまいりたいと考えております。

また、子供たちが自分の夢や希望を実現するためには、確かな学力、豊かな人間性、健やかな体、いわゆる知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を身につける必要があります。そのためには、学校は、学校だけでなく、家庭や地域に情報を発信することにより、その信頼を得ながら、家庭や地域と連携、協力して、ひいては市民の皆様と力を合わせて教育活動を展開していくことが求められております。

美祢市の学校教育の現状を見ますと、合併して2年目になりますが、市全体での学校の施設・設備、教育内容など、それぞれの地域の特性に配慮しながらも、一体的に整備・充実を図っていく必要があります。

また、児童・生徒数の減少に伴い、小規模校が多く存在し、学習面での学び合いや社会性の涵養などに課題もあり、指導上の創意工夫が必要となっております。

小規模校の今後のあり方につきましては、これらの検討課題ではありますが、それらの学校では、個々の児童・生徒に即して、その子の能力を引き出すよう、きめ細かな指導が行われているところです。

また、美祢市には、豊かな自然や細やかな人情、コミュニティの結びつきの強さ

など、教育にとりまして、よい環境も備わっていますので、このような利点を十分に生かしながら、美祢市の学校教育を推進してまいります。

具体的な取り組みとしましては、第1に「学力の向上」が上げられます。今年度取り組んでおります「学力向上対策プロジェクト事業」などを通して、美祢市の児童・生徒の学力の現状を分析した上で、効果的な対策を考えていくこととしております。

第2に、「豊かな心の育成」に取り組めます。今日の情報化の進展、情報機器の発達とともに、人間同士の心のつながりの大切さが失われがちではありますが、改めて「人間関係づくり」の取り組みを進めてまいります。

第3は、「地域との連携」です。地域の伝統文化の学習のために、地域の方々のお力をお借りしたり、「コミュニティ・スクール」の取り組みなどを通して、保護者や地域の方々の学校運営への参加のあり方などを研究し、その成果を他行にも普及してまいります。

第4に、このような学校の取り組みについて、保護者や地域の方々から評価をしていただく「学校評価システム」の充実を図り、学校と保護者・地域の方々の協力による学校運営の改善に努めてまいります。

美祢市に住めば、ここが都、ここが世界の中心ともなるものです。子供たちがこの地にしっかりと根をおろし、地域の方々に支えられながら「元気で賢く、思いやりのある人間」に育ち、それぞれの夢や希望の実現がかなうよう努めてまいる所存であります。

次に、社会教育についてであります。社会教育では、地域の方々が、年齢や場所などを問わず、「いつでも、どこでも、だれでも、何からでも」、文化・芸術活動などにいそしんだり、スポーツを楽しんだりすることが求められております。

これまで、このような地域における多様な生涯学習活動をきめ細かに支援することを通じて、地域の方々の自己実現、健康・体力の増進、地域づくり・まちづくりなどに成果を上げてまいりました。

今後の取り組みとしましては、生涯学習やコミュニティづくりの拠点となります公民館活動につきまして、それぞれの地域で、これまで受け継がれてきました特色ある取り組みを大切にしながらも、相互に連携・協力して、そのネットワークを生かして、一層の活性化を図ってまいります。

また、このたびオープンしました「長登銅山文化交流館」など、教育文化施設につきましては、子供たちや市民の方々の学習や研修の場としても積極的に活用をしております。

このように、個々の市民の方々の学習ニーズの充足にとどまらず、時代の要請や地域の課題などにも十分にこたえられるよう社会教育の一層の推進に努めてまいります。

いずれにしましても、学校教育と社会教育の一層の充実を図りながら、子供たちから高齢者の方々まで、さまざまな学習機会の提供など、地域を支える人づくりを通して、市長の公約でもあります「夢と希望と誇りが持てるまちづくり」に貢献していきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

副議長（河村 淳君） 荒山議員。

12番（荒山光広君） 予算のガイドブックにつきましてと言いますように、美祿市のその予算の市民への周知につきまして、現状についてはよくわかりましたし、一生懸命伝えようとする姿もよくわかったわけであります。

私も議会の議員は、視察にあちこち行きまして、それぞれ勉強をして、それを持ち帰ってくるわけでございますけども、我々新政会、公明党さんを含めて5名で、この1月、鹿児島県の阿久根市というところに視察に行っております。

何を見てきたかといいますと、そこは予算ガイドブック、これを平成19年からつくっておられるということで、その内容について少し勉強をさせていただきました。

この予算のガイドブックにつきましては、今一番有名なといいますか、早くから取り組まれたのは北海道のニセコ町というところで、「もっと知りたいことしの仕事」という譜題でこの予算の説明書をつくられたのが初めというふうに聞いております。

このことについては、布施先生が2年か3年前にやはり一般質問をされたというふうに思いますけども、そのニセコ町の予算ガイドブックを参考にされて、この阿久根市もこの予算ガイドブックに取り組まれたということでありますし、たまたまきょう、山口新聞で「わかりやすい予算書を配付」ということで、周南市がこの冊子を発行しまして配付をしておるということでございます。

そういったことで、今のわかりやすい予算の説明書というものが市民の方へ配られる自治体が徐々にふえてきているんだなということを感じるわけであります。

そうした中で、美祿市もこういった予算の概要というものを編成されまして、その内容を見ますと非常にわかりやすく説明はされておりますが、ホームページ上で公表され、あるいはその記者発表ということでされておるとは思いますけども、市民への配付ということには至っておりません。

こういった形が一番いいのかというのは、それぞれ自治体によって違うとは思いますが、その自治体の大きさ等によっても状況が違うというふうに思います。

ニセコ町の場合は、人口が4,600人ぐらい、面積が約197平方キロ、美祿市は、御存知のように人口2万9,000、470平方キロ、阿久根市が、人口が2万5,000、面積は忘れましたが、余り変わらないというふうに思います。

きょう新聞に出ておりました周南市が、人口15万2,000で、面積が660平方キロということでございまして、それぞれ配付の仕方等には差があると思います。

ニセコ町の場合は、もちろん小さな町ですので、全世帯にこれを配っておられるようでありまして、最初に取り組まれたということで、全国各地からこのことについて視察に行っておられます。

このガイドブックを、視察に来られた方、あるいは欲しい方には1冊1,000円で販売をしておるということで、この予算の内容を見ますと、作成費に92万円かかっておりますけども、そのうちの20万円は販売した金額で賄っているということで、なかなかしっかりしておられるなという思いをしました。

阿久根市の場合は、各課でそれぞれ事業ごとに編成をされまして、1冊の本にまとめて全戸配付をしておられるということでございます。

先ほどの周南市におきましては、これは各公民館とかスーパーとか、そういったところで配付をしているということで、これは全戸には配付されておらないようでございます。

昨年は3,000部つくられて、1部1,000円で販売をしたようでございますけども、何と2,400部は売れ残ったということで、ことしは無料配付、それぞれの公民館とかスーパー等で無料配付をされているということで、それぞれの自治体でいろいろと取り組みを考えておられるなということでございます。

要は、その内容といいますか、市民の皆さんが見て、自分たちがどれほど負担をして、どれほどサービスを受けられるのかということが一目でわかるという、そういったことが必要じゃないのかなというふうな気がしております。

市長が言われます「市民と協働したまちづくり」、やはりこの予算がどういうふうに使われて、この美祢市はどういうふうな方向に行っているんだということが一目でわかるようなPRの仕方というのにも必要じゃないかなというふうに思っております。

先ほど言いましたように、美祢市のこの予算の概要も年を追うごとにわかりやすくなってきてはおりますけども、なかなか公表の仕方が、ホームページ上でやっていますよということですけど、ホームページを見れる人はいいんですけど、やはりお年寄りとかになりますと、なかなかそれが見れないということで、情報のデバイスもあるんじゃないかなというふうに思っております。

心配なのは、これをやることによつての予算ですけども、ニセコの場合は、先ほど言いましたように90万ぐらいでやっておられますし、阿久根の場合は、こういった物ですけども、60万円弱でつくっておられます。周南の場合は特殊なんですけども。

阿久根に行っているいろいろお話を聞く中で、九州でもこの予算ガイドブックをつくっておられるところが何カ所かあるということで、その状況を聞きますと、これが行政の仕事かなと思ったんですが、外部に委託をして200万ぐらいかけてそのガイドブックをつくったら市民から大叱られたという例もあるわけでありまして、安い予算でその効果を上げられるようにということで、工夫をしていけばそれも可能になるんじゃないかなというふうな気はいたしております。

そこで、阿久根の予算ガイドブック、担当課のほうにも、こういったものがありますよということをお知らせしておるんですが、担当課の方でも結構なんですけども、こういったものを見られて感想といいますか、もし何かありましたら、ひとつお尋ねしたいと思います。

副議長（河村 淳君） 福田総務部次長。

総務部次長（福田和司君） それでは、担当のほうで感想ということでございますので、一言感想を述べさせていただきたいと思っております。

ニセコ町の予算ガイドブックにつきましては、これは議員さん言われるとおり全

国で初ということで、身近な予算、市民のための予算がどういう形で使われていると、道路につきましても、どこそこのおじいちゃんの家から、どこそこのおばあちゃんの家まで何百メートルをことし工事を行いますと、こういった形の非常に市民の目線に立ったようなガイドブックになっておるのは事実だと思います。

阿久根市のガイドブックにつきましても、内容につきましては美祢市がホームページに載せております予算の概要とほぼ同じ内容であろうかと思っております。

しかしながら、どうしても予算というのは数字を正確に羅列すると反面では見にくいという部分がございます。そこらあたりを工夫しまして、今後、先ほど市長も言われましたように、新市の総合計画が本年度できますので、そういった中で重点施策にこういった形のお金が使われているという形のを、これまでの手法の中で取り入れていくのか、新たに予算をつけて、ある程度全戸配付に近い形でやっていくのか、市長のほうとも相談しながら今後検討をさせていただきたいと考えております。

以上でございます。

副議長（河村 淳君） 荒山議員。

12番（荒山光広君） ありがとうございます。

今、感想を述べられたように、阿久根の場合の予算書もほぼ美祢と余り変わりはないんですけども、フォームといいますか、見方、これがやっぱり見やすいというか、だれが見てもぱっと一目で事業名と対象地区、または対象者、あるいは事業概要等についても詳しく書いてありますし、担当課、それから、その担当課の内線というところまで記してあります。

例えば、児童手当支給事業と言うところを見ますと、対象地区、対象者がずっと書いてありまして、事業概要も、支給金額の対象、それから、何を持っていったらいいのか、どこに問い合わせをしたらいいのかというところまで記載がしてあります。

美祢の予算の内容、同じ項目を見ると、ほぼ変わりはないんですけども、先ほど言いましたように、何を持っていったらいいのか、どこの窓口にというところは少し欠けているのかなというふうな気がいたしております。

そこで、市長にお伺いですが、先ほどからずっと美祢市の予算の周知方についての現状をるる述べていただきましたけども、今の状況で十分とお考えなのか、ある

いは今後、第一次の総合計画も立てられます。その総合計画にのっとなって来年度以降もっと詳しく、このとおりにやれというわけでないんですけども、こういった形で市民に対してわかりやすくやっていく、その辺について、もう少しお考えを聞かせていただけたらと思います。

副議長（河村 淳君） 村田市長。

市長（村田弘司君） 荒山議員の御質問ですが、幾度も申し上げておりますけれども、市長がどういう考えを持ってこの新しい市をつくり上げていこうとしているかということをも市民の方に御理解いただくのが本当に一番大切だろうと思います。でないと、この市がどこへ行くかわからないというのがあります。

そして、それをなし得るためには、この財源的な措置は必ず必要ですから、その意味でいっても予算というのは、紙にしてしまえば、この本にしてしまえばそれだけのことですけれども、それが持つておる魂の部分というのは非常に大きい部分があります。ですから、そのことを市民の方に御理解をちょうだいするということは本当に大切なことだと思っております。

昨年、私も市長になりまして、今の予算の説明資料、これはわかりやすいようにするよと申すことで、財政部局に指示をして、ある程度わかりやすくしたつもりでございますけれども、今、荒山議員がおっしゃるように、これを市民の皆様にもっとわかりやすくしてお配り申し上げて、市はこのことをなすがためにことしのこの予算を考えておるんだな、身近な面では、おっしゃったように、このお金はこういうことに使われておるんだから、私はどこにこれを尋ねればいいんだということもわかるものですね、こういうものを。

今、福田次長も非常にええ答弁をしたなと思っておりますので、考えさせていただきます。それも私が考えさせていただきますと言いましたら、すぐやりますので、遅くとも来年の当初にはそれはやりたいと思います。これはしたいと思います。ことしは既に出発をしておりますけれども、ことし、予算的な裏づけが必要なものですから、可能かどうか検討をさせていただきたいと思っております。

先ほどの布施議員の御質問で人口の話がありましたので、今この休憩時間に人口と世帯の資料を今手元に持つておるんですが、先ほど休憩時間に手に入れましたから、この21年の3月末、ですから、ことしのこの年度当初の瞬間で新市の世帯は1万1,722世帯です。

ですから、例えば1冊100円で作ったにしても117万ぐらいでできるということ、先ほどおっしゃったように、ニセコ町90万、ニセコは4,000世帯ぐらいで、高いです、これは。私は、もっと努力すれば安くなると思いますので、100万もあればできるんじゃないかと思います。

それはまた財政とも協議しまして、なるべく安い予算をもってつくらせていただいて、その使うべきお金というのは、その予算の説明資料にお載せしますから、この部分がこのガイドブックができたもとのお金だなということもおわかりになるような形にさせていただきたいと思います。

以上でございます。

副議長（河村 淳君） 荒山議員。

12番（荒山光広君） ありがとうございます。

今年度は、今言われますように、もう既に動いておりますので、機会があれば、今のこの予算の概要といいますか、この辺、希望者に渡されるぐらいでいいと思いますけども、次年度からは今の総合計画もできますし、さらに詳しく知らせていただくためにもぜひ取り組んでいただきたいと思います。

今、各地でいろいろやっておられますので、いろんなフォームもあろうかと思えます。ぜひ、いろいろ取り寄せていただいて、美祿市に一番ふさわしいのはどういう形かということをご検討いただきたいと思います。ありがとうございます。

次に、教育長さんですけども、壇上で申し上げましたように、新任早々6月議会でデビューということでございますけども、冒頭より5名のうち4名の出場ということで、大変御苦労さまでございます。

合併をして、新しい市になりまして、永富教育長さんももともと美祿の御出身ではありましようけども、しばらく美祿を離れておられたということで、なかなか細かいところまではどうしても今からのことだろうというふうに思っております。

ですから、きょうは教育長さんには学校教育、あるいは社会教育の基本的なスタンスについてお伺いをしたかったわけでありまして、先ほどの答弁で基本的なことについては十分理解できたというふうに思っております。

ただ、その中でありましたように、今、合併しまして小学校、中学校が、小学校で22、中学校が8校ということで、いずれも小規模、一部中規模の学校もありますけども、いずれも小規模ということで、答弁の中にもありましたように、これが

らの検討課題というふうになっております。

この小学校、中学校の適正な配置につきましては、地域的なこともありますし、歴史的なこともありますし、なかなか一朝一夕にはいかないというふうに思いますけれども、いろんな側面から、このままではどうしてもいかないという思いは広く市民の皆さんも御理解があるところではなかろうかというふうに思っております。

そこで、3年ぐらい前ですか、合併前に小学校、中学校の保護者の皆さんを対象に今の学校の適正な規模についてのアンケートをされたことはあると思います。そういったものもぜひ参考にさせていただきながら今後検討を重ねていただきたいというふうに思っておりますし、議会のほうでも恐らく教育民生委員会あたりでその辺のことについて今から議論が深められるというふうに思っております。

この適正な配置等については、その学校の設置ということで、基本的なことは市長の権限になるかというふうに思っておりますけれども、永富教育長さんのほうで、これをするとかしないとかということではなくて、今の小学校、中学校の適正な配置について、もしお考えが述べられれば、お伺いをしたいというふうに思います。

副議長（河村 淳君） 永富教育長。

教育長（永富康文君） 荒山議員のお尋ねにお答えいたします。

学校の適正規模についての私の考えということでございますけれども、今御指摘がありましたように、それぞれの学校の持つております地域の特性とか、あるいは児童の通学の利便性とか、校舎の建て替えの状況とか、あるいは児童・生徒自身がどういう集団の中で育ったらいいのかとか、あるいは教員の配置の問題とか、さまざまな問題があろうかと思えます。

そういうふうな要素、あるいはまた、特に地域や保護者の方々の御意見も大きいかと思えますので、そういうふうな御意見を聞きながらさまざまな要素を勘案しながら、今後、総合的に考えてまいりたいというふうに考えております。

いずれにしましても、いろんな立場、地域もございましょうから、十分に御意見等をお聞きしながら慎重に対応をしてみたいというふうに思っております。

以上でございます。

副議長（河村 淳君） 荒山議員。

12番（荒山光広君） ありがとうございます。

今、合併しまして、小学校、中学校のPTA、我々がPTAのお世話をするころ

は、小学校、中学校それぞれ別々に連合会というものがあつたわけですが、今は合併をいたしまして、小学校も中学校も旧美祢市地域、あるいは旧秋芳、美東地域が皆一緒になって一つの美祢市PTA連合会というものになっておるようでございます。

そういった意味では、保護者の皆さんの意見の集約というものを逆にしやすいんじゃないかなというふうに考えておりますので、その辺について保護者の皆さん、あるいはまた、地域の皆さんのいろんな声を反映していただきながら、適正な配置等について、ぜひ御検討をいただきたいというふうに思っております。

本日の通告しておりました質問については以上で終わりたいと思っておりますけども、これは通告をしておりませんので、またの機会にでもさせていただきたいと思っておりますが、最近いろんなたくさんの市民の皆さんから、この市役所周辺の駐車場のことについていろんなお話を聞きます。

以前、西岡議員がこの駐車場問題について質問されて、来訪者の方の確保もされておりますけども、最近、非常に職員の方もふえたせいでありましょうけど、全く車が多いと。

例えば、子供たちが何かの行事で来たときにあの周りをちょろちょろして、車がどっと来たときに、あれは事故になるよというふうな話も聞いております。事故が起こってからでは遅いわけでありまして、いろいろまた市のほうでも御検討をいただきたいと思っておりますし、また、機会がございましたら、この問題について改めて一般質問をさせていただきたいというふうに思っております。

きょう通告いたしましたことにつきまして前向きな答弁をいただきましたこと、ありがとうございました。

以上で終わります。

副議長（河村 淳君） 以上をもちまして、本日予定された一般質問は終了いたします。

残余の一般質問につきましては明日行いたいと思っております。

本日は、これにて散会をいたします。お疲れさまでございました。

午後4時05分散会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成21年6月11日

美祿市議会議長 秋山哲朗

美祿市議会副議長 河村淳

会議録署名議員 馬場真一

" 岡山隆